

未来につなぐ資源管理 2024



青森県農林水産部水産局水産振興課
(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

本パンフレットの漁獲量及び漁獲金額は、主に「青森県海面漁業に関する調査結果書（青森県農林水産部）」（属地）を用いており、海域ごとのデータは、市町村別データを基本に以下のとおり区分し算出しています。

○海域ごとの市町村区分

- ・太平洋海域
階上町、八戸市、おいらせ町、三沢市、六ヶ所村、東通村（白糠～尻屋）
- ・津軽海峡海域
東通村（岩屋～石持）、むつ市関根浜、むつ市大畑町、風間浦村、大間町、佐井村、今別町、外ヶ浜町（三厩、竜飛）
- ・陸奥湾海域
むつ市（脇野沢村～田名部）、横浜町、野辺地町、平内町、青森市、蓬田村、外ヶ浜町（蟹田、平舘）
- ・日本海海域
中泊町、五所川原市、つがる市、鰺ヶ沢町、深浦町
（※但し、トゲクリガニ、マナマコではむつ市を陸奥湾海域とした。マダラでは佐井村を陸奥湾海域とした。ミズダコでは東通村を津軽海峡とした。）

○資源評価について

本文中の資源評価は下記の基準によって行っています。

資源の動向、漁獲の動向：過去5ヵ年の漁獲量などの統計値の推移から、「増加傾向、横ばい、減少傾向」に区分する。

資源の水準、漁獲の水準：最新年の漁獲量などを過去の年と比較し「高位」、「中位」、「低位」に区分する。

魚介類の測定方法



目次

2023年漁獲量及び漁獲金額（過去5年平均比）	1
ヒラメ	3
マコガレイ	5
ムシガレイ	7
マガレイ	8
マダラ	9
マダイ	10
ハタハタ	11
イカナゴ類	12
クロソイ・キツネメバル	13
ウスメバル	14
キアンコウ	15
ウバガイ	16
サザエ	17
エゾアワビ	18
ヤリイカ	19
ミズダコ	20
キタムラサキウニ	21
マナマコ	22
トゲクリガニ	23
青森県沿岸域の海面水温の推移	24
青森県の主要魚種の漁獲状況	25
青森県における主な栽培漁業対象魚種の放流数量	35
青森県における資源回復計画	36
青森県における自主的資源管理措置等	37
青森県における資源管理協定の概要	38
青森県漁業調整規則による採捕の制限	42

2023年漁獲量及び漁獲金額(過去5年平均比)

(青森県海面漁業に関する調査結果書より)

漁獲量

単位:トン

魚種	2023	過去5年 平均比 %	過去5年 (2018-2022) 平均	2018	2019	2020	2021	2022
まいわし	22,067	84.6	26,093	46,731	27,962	22,479	19,670	13,624
かたくちいわし	13	3.8	339	448	285	384	535	43
かつお	76	241.4	31	35	57	29	25	12
まぐろ	770	121.8	632	402	558	754	663	784
かじき	12	235.1	5	2	4	5	11	4
さば	4,892	25.2	19,386	38,872	19,360	22,206	12,367	4,124
ぶり	2,181	94.4	2,311	3,526	2,377	1,938	2,649	1,068
たら	5,367	139.2	3,856	3,069	3,747	3,435	4,162	4,869
すけとうたら	3,154	138.2	2,282	601	1,157	1,849	2,878	4,928
さめ	519	79.2	655	848	774	605	592	457
たい	334	79.1	422	409	479	379	447	394
まがれい	23	56.1	40	55	43	46	29	27
いしがれい	42	83.5	50	49	67	59	42	33
そうはちがれい	45	71.8	63	81	65	61	63	44
ばばがれい	205	81.7	251	297	267	256	214	222
まこがれい	145	89.2	162	191	153	185	137	146
むしがれい	74	45.9	161	191	192	185	123	112
ひらめ	945	124.8	757	743	773	796	751	723
ほっけ	261	38.3	681	589	617	684	590	924
あじ	165	104.6	158	26	186	281	162	134
さんま	0	0.0	4	19	0	0	0	2
さけ	194	11.1	1,750	4,243	1,982	1,431	546	547
さくらます	183	82.2	223	208	319	171	242	177
からふとます	0	2.3	9	41	1	3	0	1
こうなご	0	0.0	33	68	33	30	17	18
あいなめ	64	79.2	80	90	92	82	65	73
そい	204	84.8	241	281	259	263	200	201
うすめばる	283	70.2	402	475	490	440	317	291
めめけ	7	61.7	11	10	15	7	16	5
きちじ	47	69.9	67	127	63	55	51	38
かながしら	8	76.4	10	14	11	9	9	9
あんこう	474	94.2	503	473	492	524	552	473
さわら	36	38.7	92	103	100	125	94	38
はたはた	35	11.3	308	655	423	167	170	127
ほたてがい	56,545	67.2	84,200	85,286	99,154	80,510	77,908	78,144
うばがい	396	78.6	504	637	631	408	449	392
さざえ	63	194.9	32	17	16	29	43	57
にじます	1,680	—	—	0	176	872	1,140	1,676
あわび	19	91.2	21	33	22	19	13	18
するめいか	4,732	49.9	9,483	12,429	12,017	10,606	5,782	6,579
やりいか	1,030	88.3	1,166	1,870	1,023	960	879	1,098
あかいか	2,583	53.5	4,831	4,631	7,152	6,528	3,324	2,520
たこ	730	71.4	1,022	970	1,246	999	1,070	825
くるまえばい	0	106.0	0	0	0	0	0	1
かに	351	73.3	479	409	576	468	504	438
うに	261	60.6	431	510	552	439	344	311
なまこ	640	93.4	686	754	693	728	608	647
ほや	67	18.8	356	619	536	352	198	77
こんぶ	1,886	160.6	1,175	1,440	1,264	587	1,150	1,432
わかめ	65	96.0	68	84	79	69	52	54
その他	3,159	103.4	3,055	3,046	2,785	3,691	2,756	2,997
計	117,029	68.7	170,353	216,706	191,322	167,188	144,610	131,937

漁獲金額

単位:百万円

魚種	2023	過去5年 平均比 %	過去5年 (2018-2022) 平均	2018	2019	2020	2021	2022
まいわし	1,323	132.5	999	1,669	1,261	852	698	514
かたくちいわし	0	3.2	13	18	14	15	15	3
かつお	11	535.7	2	2	3	2	2	1
まぐろ	2,537	120.8	2,100	1,915	2,496	1,828	1,750	2,509
かじき	12	226.9	5	2	3	4	13	5
さば	536	25.1	2,132	4,185	2,265	2,766	1,023	419
ぶり	597	176.5	338	516	417	233	290	235
たら	1,053	122.0	863	1,033	881	764	748	890
すけとうたら	191	132.6	144	61	105	102	146	306
さめ	36	61.4	58	105	69	44	35	36
たい	183	85.0	215	246	246	173	163	247
まがれい	10	70.1	15	21	15	17	11	10
いしがれい	21	92.4	22	22	29	27	18	16
そうはちがれい	9	81.4	11	15	12	11	11	7
ばばがれい	136	99.9	137	173	142	125	119	124
まこがれい	86	126.8	67	83	61	70	60	64
むしがれい	25	55.6	45	56	52	53	35	31
ひらめ	921	134.7	684	741	741	633	590	715
ほっけ	32	88.5	36	30	34	30	29	56
あじ	43	279.1	15	6	10	13	22	25
さんま	0	0.0	0	1	0	0	0	0
さけ	195	16.5	1,179	2,266	1,358	1,184	601	485
さくらます	223	116.0	192	194	254	146	175	193
からふとます	0	8.8	2	8	0	1	0	0
こうなご	0	0.0	23	37	20	23	15	17
あいなめ	70	109.5	64	77	78	56	48	61
そい	106	112.6	94	111	101	93	75	91
うすめばる	289	80.9	357	412	418	375	282	299
めぬけ	10	80.8	13	13	18	9	17	7
きちじ	68	82.0	83	146	87	68	59	52
かながしら	1	101.2	1	2	2	1	1	1
あんこう	223	120.0	186	183	148	194	213	189
さわら	15	25.0	59	72	62	76	54	33
はたはた	48	39.4	122	179	99	83	116	133
ほたてがい	13,403	101.9	13,154	13,820	13,484	9,216	13,620	15,630
うばがい	149	112.4	132	172	138	111	112	129
さざえ	34	178.6	19	15	13	15	20	33
にじます	1,491	—	—	0	157	482	620	888
あわび	135	89.8	150	253	160	122	86	131
するめいか	4,711	78.9	5,974	6,728	7,171	6,396	3,967	5,608
やりいか	1,105	102.1	1,082	1,524	918	972	829	1,167
あかい	2,304	104.6	2,203	2,061	3,011	2,221	1,441	2,279
たこ	745	132.3	563	552	610	449	552	654
くるまえび	2	148.9	1	1	1	1	1	3
かに	167	89.8	186	128	190	176	213	220
うに	453	81.1	559	581	675	509	499	531
なまこ	1,900	89.2	2,130	2,784	1,763	1,770	1,851	2,484
ほや	25	34.3	73	119	106	67	44	28
こんぶ	546	133.5	409	604	491	212	272	468
わかめ	9	98.8	9	11	11	8	7	8
その他	1,626	118.6	1,371	1,593	1,324	1,385	1,186	1,368
計	37,815	97.7	38,722	45,546	41,723	34,183	32,751	39,406

ヒラメ *Paralichthys olivaceus*

地方名：あおば、てっくい



生態

- ①寿命：オス 10 年以上、メス 20 年以上
- ②成熟：オス 2 歳以上、メス 3 歳以上
- ③産卵期：5 月～7 月
- ④産卵場：水深 30m 以浅の粗砂及び砂礫地帯
- ⑤分布：千島列島から九州、東シナ海に分布
- ⑥生態：産卵後 1 日～2 日でふ化し、約 1 ヶ月間の浮遊期間の後に水深 10m 以浅の砂または砂泥域に着底し、成長に伴い深所へ移動する。生息域は水深 100m 以浅の海域。季節的に深浅移動する。稚魚はアミ類を主に摂餌し、成長とともに魚類、イカ類を捕食する。

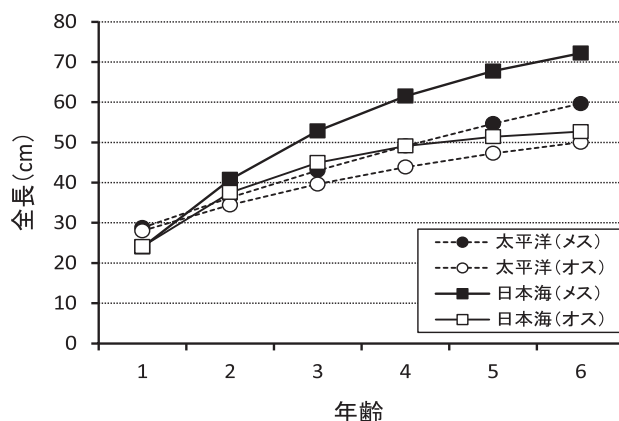


図 青森県におけるヒラメの成長

出典：太平洋：Yoneda et al. (2007) Fisheries Science. 73, 585-592.

日本海：吉田ら (2011) 青産技セ水研研報. 7, 1-8.

主な漁業

ヒラメはほぼ周年にわたって県内全域で漁獲される。日本海から津軽海峡西部にかけては 5 月～7 月に底建網・一本釣で、陸奥湾から太平洋北部にかけては 5 月～7 月及び 11 月～翌年 1 月に定置網・底建網・刺し網で、太平洋南部では 9 月～10 月に刺し網で、11 月～翌年 5 月に小型底びき網で漁獲される。1 歳、2 歳から漁獲される。

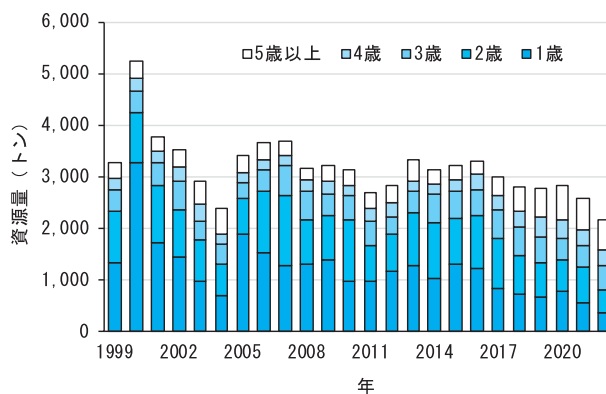


図 青森県のヒラメの年齢別資源量の推移

資源の動向と水準

青森県の資源量は 2000 年に 5,232 トンと 1999 年以降最高となったが、翌 2001 年に減少に転じ 2004 年に 2,388 トンとなった。2005 年に 3,404 トンに増加し、以降は増減しながらも横ばいであったが、2017 年から減少傾向となり、2022 年の資源量は 2,173 トンであった。

2023 年の資源動向は、コホート解析により推定した資源量の 2018 年～2022 年までの直近 5 年間の傾きから減少、資源水準は、コホート解析により推定した資源量と過去の漁獲量の推移を判断材料とし、中位と判断した。



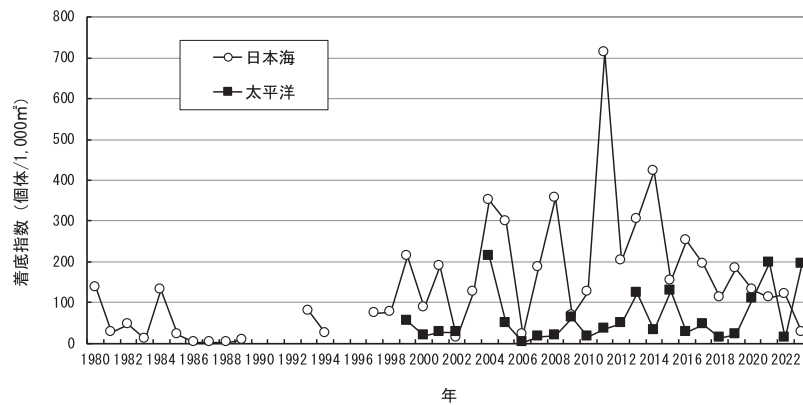


図 発生年別ヒラメの年齢別資源尾数と着底指数の推移

(日本海ヒラメ稚魚発生量)

2023 年のヒラメ稚魚の着底指数は 27 で、1980 年以降の平均値 147 を下回る水準であった。

(太平洋ヒラメ稚魚発生量)

2023 年のヒラメ稚魚の着底指数は 193 で、1999 年以降の平均値 56 を上回り、過去 3 番目に高い水準であった。

* 着底指数：発生量の指標値。日本海はつがる市沖、太平洋は三沢市沖で夏期に着底稚魚調査を実施。水深別の平均分布密度（個体/1,000m²）の年最高値。

海域別漁獲量及び漁獲金額

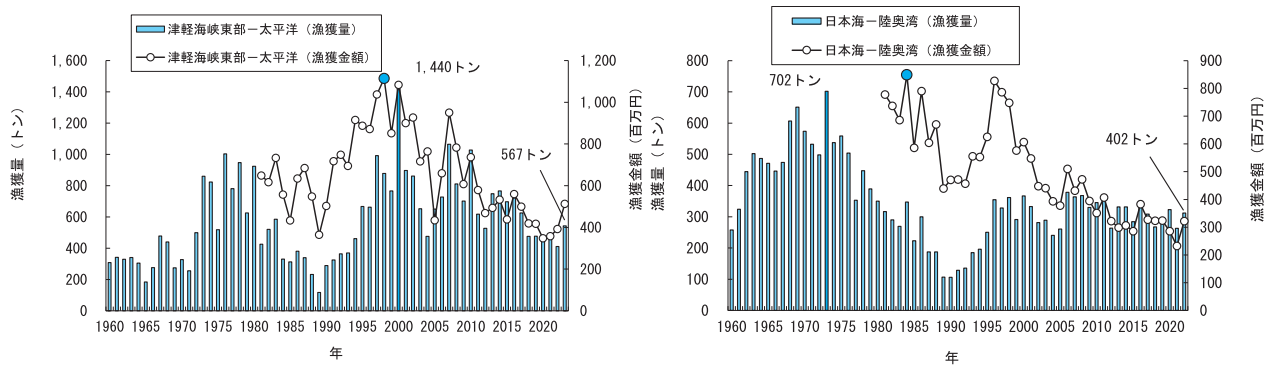


図 青森県におけるヒラメの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移

* 日本海-陸奥湾海域：大間越漁協から小泊漁協に、津軽海峡西部の竜飛今別漁協、三厩漁協、陸奥湾の外ヶ浜漁協から脇野沢村漁協を含むものとした。

* 津軽海峡東部-太平洋海域：階上漁協から尻屋漁協に、津軽海峡東部の佐井村漁協から岩屋漁協を含むものとした。

資源を上手に利用するために

○ひらめ資源管理指針（1990 年 3 月）、資源管理計画（日本海：1994 年 3 月、太平洋：1996 年 3 月）

- ・全長 35cm 未満個体の再放流の他、さし網についてはひらめ網の目合制限（6.0 寸以上）、三枚網の禁止、留網の禁止などを定めている。

○青森県太平洋海域ヒラメ資源回復計画（2008 年 3 月）

- ・小型ヒラメの保護を推進するため、さし網漁業では 9 月～12 月の水深 10m 以浅の区域、小型機船底びき網漁業は北緯 41 度以南の水深 100m 以浅の区域におけるヒラメを目的とした操業の自粛を定めている。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・1988 年に「県の魚」に制定される。
- ・年間 100 万尾の計画で種苗放流が行われており、2023 年の放流尾数は 102.7 万尾。

マコガレイ *Pseudopleuronectes yokohamae*



地方名：くろがしら（八戸、陸奥湾）、まがれい（陸奥湾、日本海）

生態

- ①寿命：10 年以上
- ②成熟：3 歳以上
- ③産卵期：陸奥湾では 12 月～翌年 1 月
太平洋では 1 月～3 月
日本海では 3 月～4 月
- ④産卵場：水深 10m～60m の砂泥域
- ⑤分布：北海道南部以南から大分県付近、朝鮮半島南部、東シナ海
- ⑥生態：通常は水深 100m より浅い砂泥域に生息。
食性は珪藻類、橈脚類、貝類、アミ類、ゴカイ類、甲殻類。

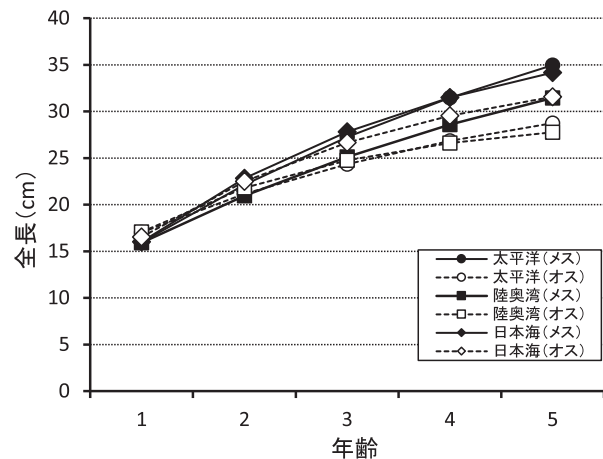


図 青森県におけるマコガレイの成長

出典：太平洋・陸奥湾：藤川（1998）H9 資源管理型漁業推進事業報告書、21-35。
日本海：Kooka et al.（2000）北海道大学水産学部研究業績、51、121-126。

主な漁業

底建網、刺し網、底びき網で漁獲される。主漁期は太平洋と陸奥湾では 12 月～翌年 2 月、日本海では 1 月～4 月で 2 歳から漁獲される。

漁獲の動向と水準

マコガレイの漁獲量は、青森県全体では 2008 年の 557 トンをピークに減少が続き、2023 年には 148 トンで 1996 年以降、2 番目に少なかった。2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、各海域共に低位であった。

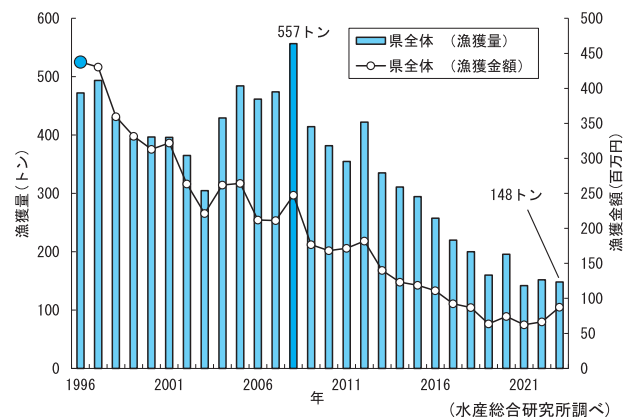


図 青森県におけるマコガレイの漁獲量及び漁獲金額の推移

太平洋 漁獲の動向 横ばい 漁獲の水準 低位	津軽海峡 漁獲の動向 横ばい 漁獲の水準 低位
陸奥湾 漁獲の動向 横ばい 漁獲の水準 低位	日本海 漁獲の動向 減少 漁獲の水準 低位

海域別漁獲量及び漁獲金額

海域別漁獲量は、太平洋では 2008 年の 324 トンをピークに減少し続け 2023 年は 50 トンと低調、津軽海峡では 1997 年の 90 トンから減少し続け 2023 年は 13 トンと 1996 年以降と過去最低、陸奥湾では 2007 年の 158 トンから減少傾向となり 2023 年は 79 トンと低調、日本海では 2013 年の 59 トンから減少し 2023 年は 6 トンで 1993 年以降、過去最低であった。

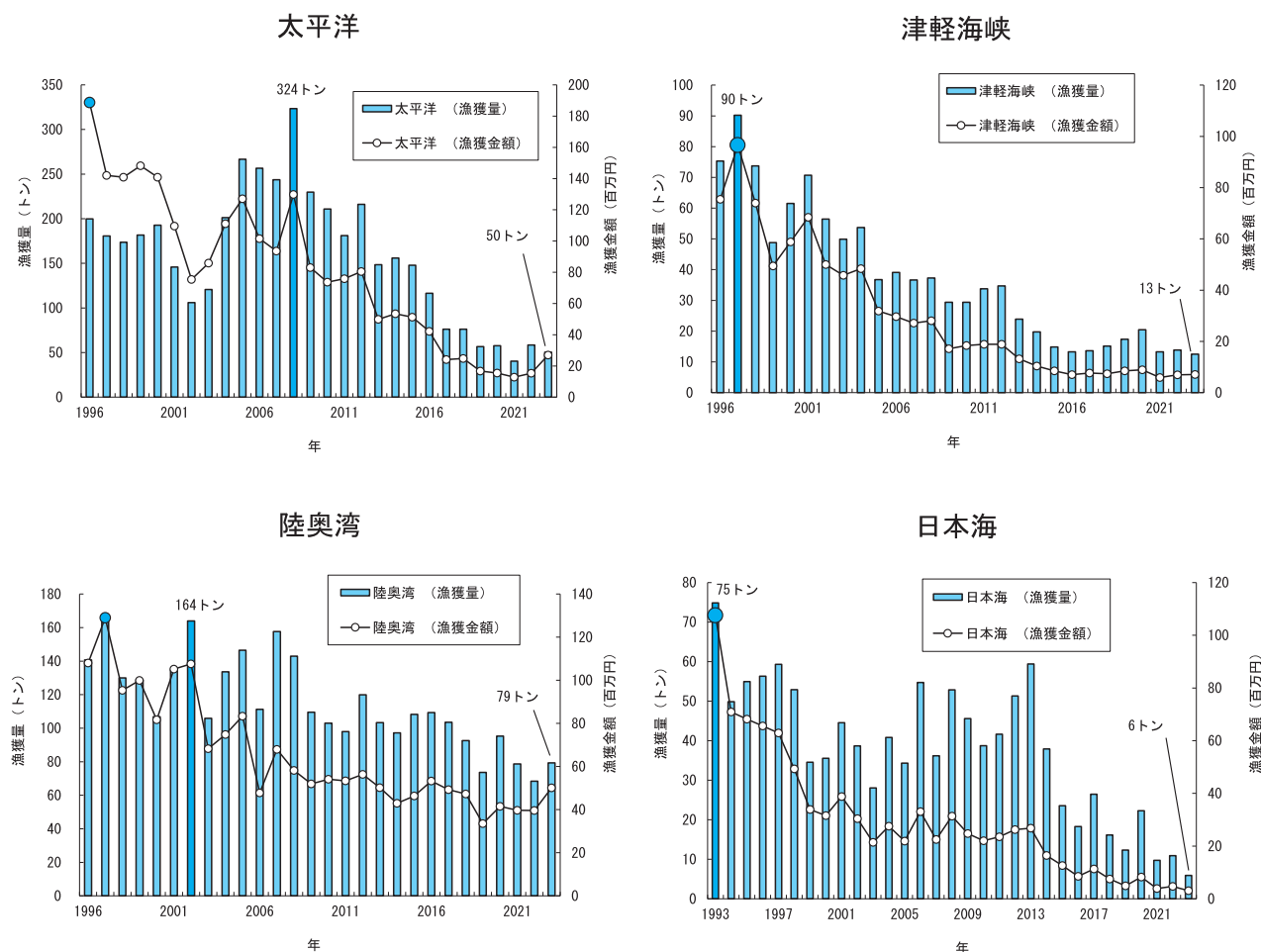


図 青森県におけるマコガレイの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移（水産総合研究所調べ）

資源を上手に利用するために

○マコガレイ資源管理計画（2001 年 3 月）

・全長 20cm 未満個体の再放流、かたい刺し網の目合制限（3.5 寸以上）を定めている。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・本県に分布するマコガレイは、産卵期が太平洋、津軽海峡、陸奥湾、日本海でそれぞれ異なり、遺伝的にも異なる（水産研究・教育機構水産資源研究所）。
- ・野辺地町漁業協同組合では 2011 年から、車力漁業協同組合では 2012 年から、水産総合研究所への委託事業としてマコガレイの種苗放流事業を継続して行っている。

ムシガレイ *Eopsetta grigorjewi*

日本海海域

地方名：さいべ、さんとがれい（八戸）、みずがれい、
みずくさ、みずくさがれい（陸奥湾、日本海）



生態

- ①寿命：10 年以上
- ②成熟：オス 2 歳（全長 18cm）以上
メス 3 歳（全長 21cm）以上
- ③産卵期：4 月～6 月
- ④産卵場：水深 100m 以浅の砂泥域
- ⑤分布：北海道（噴火湾、稚内）以南の日本沿岸、
台湾、東シナ海
- ⑥生態：通常は水深 200m～250m 以浅の砂泥域に
生息。食性は甲殻類、イカ類、魚類など。

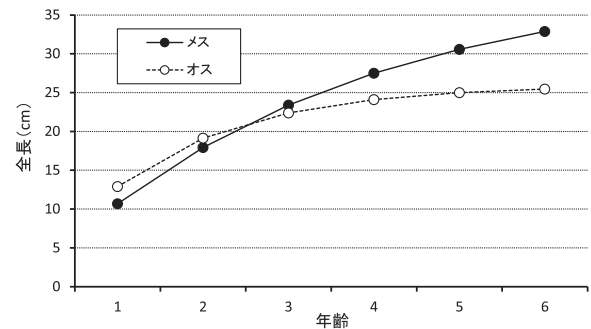


図 青森県におけるムシガレイの成長

出典：伊藤ら（2015）青産技セ水研研報，9，15-26.

主な漁業

底建網、刺し網、底びき網で漁獲。主漁期は 4 月～
5 月。漁獲主体は 3 歳～5 歳。

資源の動向と水準

青森県日本海側のムシガレイ漁獲量は、1993 年の
5 トン以降増加傾向が続き、2017 年に 127 トンを記
録したが、その後減少し、2023 年に 16 トンとなった。

2023 年の資源動向は、コホート解析により推定し
た資源量の直近 5 年間の傾きから減少と判断した。
資源水準は、コホート解析により推定した資源量を
判断材料とし、その最高値と最低値との間を 3 等分
し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

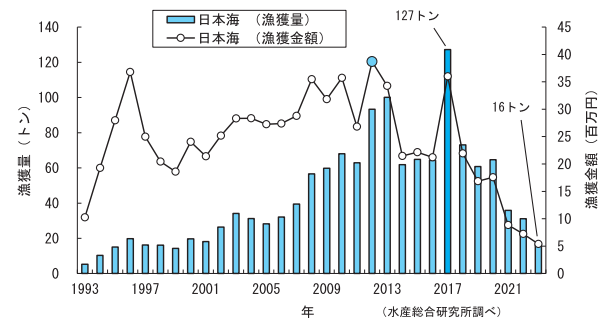


図 青森県日本海ムシガレイの漁獲量及び漁獲金額の推移



資源を上手に利用するために

○資源管理計画（日本海海域 1999 年 3 月）

- ・全長 20cm 未満個体の再放流、かれい刺し網の目合規制（3.5 寸以上）の徹底が定められた。
- ☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・青森県日本海海域で実施した標識放流調査では、本県日本海から秋田県沖を回遊することが報告されている。

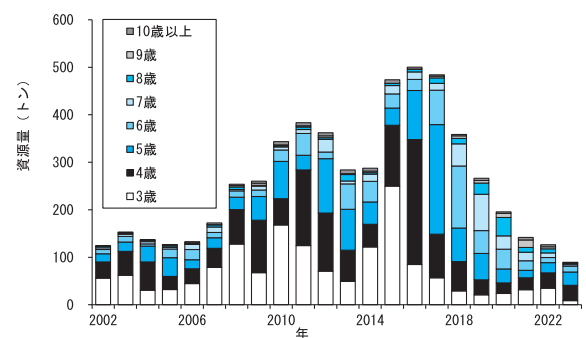


図 青森県日本海ムシガレイの年齢別資源量の推移

マガレイ *Pseudopleuronectes herzensteini*

日本海海域

地方名：あかがしら、くちぼそ、あかがれい（陸奥湾、日本海）



生態

- ①寿命：10 年以上
- ②成熟：オス 2 歳、メス 3 歳以上
- ③産卵期：本県日本海では 4 月、陸奥湾では 5 月
- ④産卵場：水深 15m～70m の砂泥域
- ⑤分布：サハリン、千島から瀬戸内海、山陰地方にかけての沿岸域。
- ⑥生態：通常は水深 150m 以浅の沿岸の砂域から砂泥域に生息。食性はゴカイ、二枚貝、ヨコエビ、クモヒトデ類など。

主な漁業

底建網、刺し網、底びき網で漁獲。主漁期は 1 月～3 月、9 月～10 月。漁獲主体は 2 歳～3 歳。

資源の動向と水準

青森県日本海側の漁獲量は、1993 年の 96 トンをピークにその後減少傾向にあり、2023 年には 5 トンと最低となった。

2023 年の資源動向は、コホート解析により推定した資源量の直近 5 年間の傾きから減少と判断した。資源水準は、コホート解析により推定した資源量を判断材料とし、その最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。



資源を上手に利用するために

- 資源管理計画（1994 年 3 月）
 - ・かれい刺し網目合規制（3.5 寸以上）の徹底、三枚網及び留網禁止などを定めた。
- 日本海北部マガレイ、ハタハタ資源回復計画（2003 年 7 月水産庁）
 - ・小型定置漁業（底建網漁業を含む）による全長 15cm 未満個体の再放流を定めた。
- ☆上記の取組を継続することが必要である。

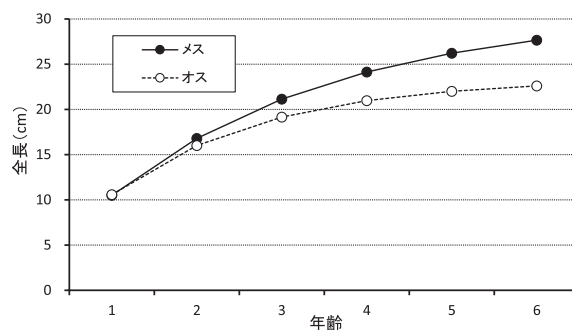


図 青森県におけるマガレイの成長

出典：伊藤ら（2015）青産技セ水研研報，9，1-14.

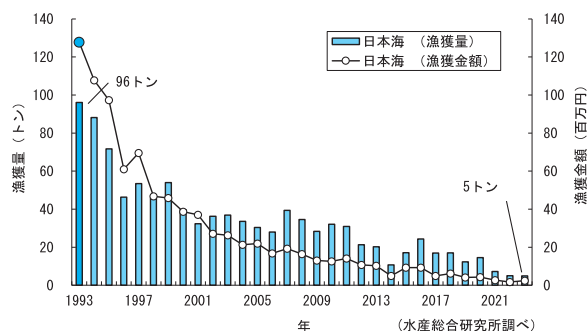


図 青森県日本海マガレイの漁獲量及び漁獲金額の推移

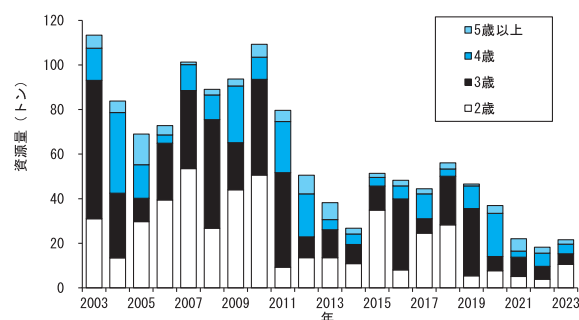


図 青森県日本海マガレイの年齢別資源量の推移

マダラ *Gadus macrocephalus*

陸奥湾海域

地方名：たら、ぽんたら、ぼうだら



生態

- ①寿命：陸奥湾産卵群は8年以上（太平洋8年、日本海10年）
- ②成熟：オス3歳以上、メス4歳以上
- ③産卵期：陸奥湾で12月下旬～翌1月中旬
- ④産卵場：陸奥湾、岩崎沖、階上沖
- ⑤分布：黄海からカリフォルニア沖に至る北太平洋大陸棚と大陸斜面。日本では島根県以北の日本海及び茨城県以北の太平洋から北海道沿岸。
- ⑥生態：直径1mm前後の弱粘着性の沈性卵を200万粒～500万粒産卵。水温2℃～4℃、水深200m～500mの海底付近に生息。主な餌生物は甲殻類や魚類、イカ類、貝類など。

主な漁業

陸奥湾では産卵期である12月～2月に主に底建網、定置網で漁獲される。陸奥湾以外の海域では底びき網、底建網、刺し網、釣りなどで漁獲される。

陸奥湾では2歳から漁獲される。

漁獲の動向と水準

陸奥湾（竜飛～奥戸）における漁獲量は、1975年以降増加し、1986年に2,037トンとなったが、1993年以降低迷した。2009年以降増加に転じ、2016年に1,000トンを超え、2023年は2,569トンの豊漁となった。漁獲物の年齢は、3歳～5歳が主体で、2016年漁期以降は6歳以上の高齢魚も漁獲されていた。

2023年の漁獲動向は、漁獲量の直近5年間の傾きから増加と判断した。漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を3等分し、上から高位、中位、低位とすると、高位であった。



資源を上手に利用するために

○マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画（2007年3月水産庁）

- ・陸奥湾地区の底建網漁業及び小型定置漁業による、放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流などについて定めた。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・陸奥湾におけるマダラ稚魚の発生状況をモニタリングするため、青森県産業技術センター水産総合研究所では、2017年から陸奥湾で試験船青鵬丸によるオッタートロール調査を行っている。2023年の調査では東湾で高い密度の分布がみられた。

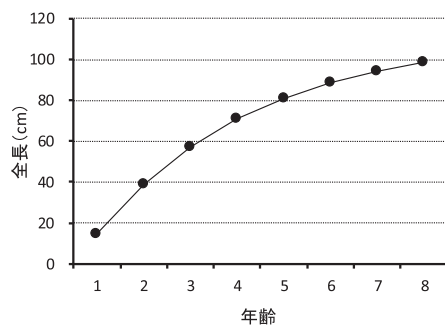


図 青森県におけるマダラの成長

出典：桜井・福田（1984）青森水増せ研報，3，9-14.

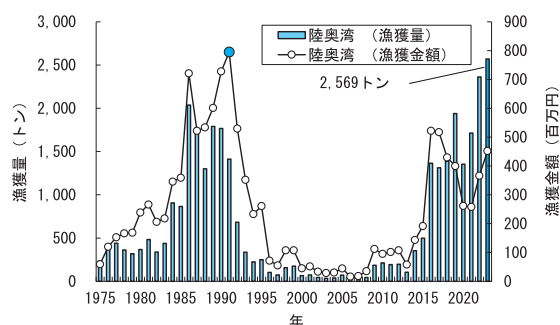


図 青森県陸奥湾におけるマダラの漁獲量及び漁獲金額の推移

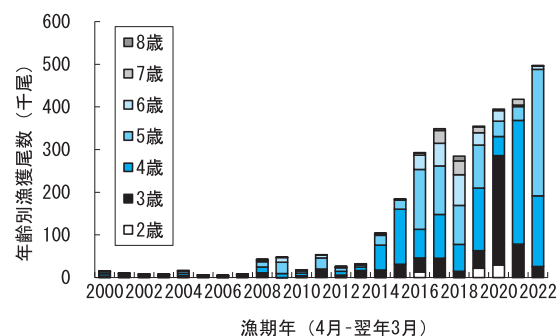


図 青森県陸奥湾におけるマダラの漁期年別年齢別漁獲尾数

マダイ *Pagrus major*

地方名：たい、ささだい



生態

- ①寿命：20 年以上
- ②成熟：50%成熟年齢は、オス 5 歳、メス 5 歳
- ③産卵期：5 月後半～8 月
- ④産卵場：浅瀬の岩礁帯
- ⑤分布：北海道以南の日本各地
- ⑥生態：通常は水深 30m～200m の岩礁帯に生息。
食性は端脚類、橈脚類、オキアミ類、
甲殻類、イカ類、魚類。

主な漁業

定置網、底建網が主体。5 月～7 月と 11 月～12 月が主漁期。1 歳から漁獲される。

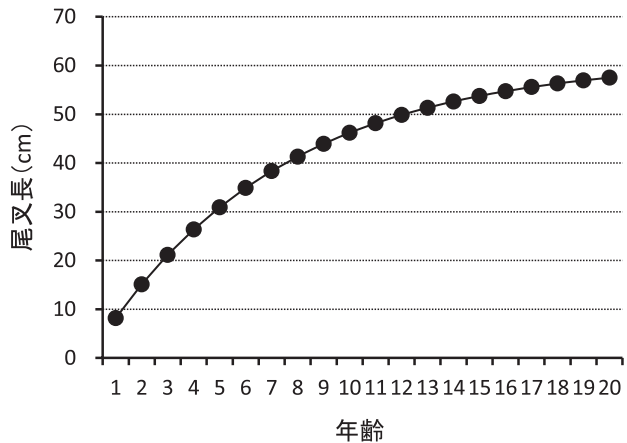


図 青森県におけるマダイの成長

出典：小谷 2020 年度青産技セ水総研事業報告書 8-9

漁獲の動向と水準

1960 年以降では、最高を記録した 1964 年の 701 トンから急減し、1988 年に過去最低の 43 トンまで減少し、その後増加に転じ、1996 年以降は 300 トン～600 トンの範囲で推移した。1996 年以降では、2002 年、2011 年、2012 年に 500 トンを超える豊漁で、2013 年に減少した後、横ばい傾向となり、2023 年には 334 トンと前年を下回った。

2023 年の漁獲水準は、長期間データを有する漁獲量を判断材料とし、その最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、中位であった。

資源を上手に利用するために

- ・青森県日本海地域資源管理計画(1994 年 3 月、県漁連)で小型定置漁業における当歳の再放流を定めている。
- ☆上記の取組を継続することが必要である。

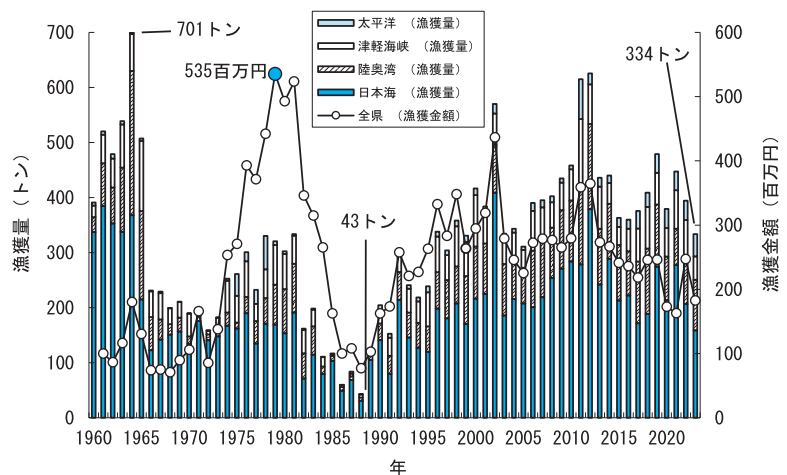


図 青森県における海域別の「たい」の漁獲量及び漁獲金額の推移
※チダイも含まれるが、殆どがマダイ



ハタハタ *Arctoscopus japonicus*

日本海海域

地方名：かみなりうお



生態

- ①寿命：5年以上
- ②成熟：オス1歳（全長15cm）以上
メス2歳（全長21cm）以上
- ③産卵期：11月下旬～翌年1月
- ④産卵場：水深2m～10mのホンダワラ類の藻場。
- ⑤分布：北海道沿岸、秋田県男鹿半島を中心とした日本海沿岸、朝鮮半島東部沿岸。
- ⑥生態：水深150m～400mの砂泥域に生息。
食性は端脚類、橈脚類、オキアミ類、イカ類。

主な漁業

定置網、刺し網、底びき網で漁獲。主漁期は11月下旬～12月。1歳から漁獲される。

資源の動向と水準

ハタハタの漁獲量は、1965年～1975年には大きく変動はあるものの1,000トン前後で推移したが、1976年以降低迷した。2000年以降増減を繰り返し、2008年は日本海で1,362トンと33年ぶりに1,000トンを超えた。2023年の漁獲量は35トンで2000年以降最も少なかった。

2023年の資源動向は、コホート解析により推定した資源量の直近5年間の傾きから減少と判断した。資源水準は、コホート解析により推定した資源量を判断材料とし、その最高値と最低値の間を3等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

資源の動向



減少

資源の水準

低位

資源を上手に利用するために

- 北部日本海海域ハタハタ資源管理協定（1999年4月締結、2019年4月更新）
 - ・底びき網漁業において、全長15cm未満個体の採捕禁止が定められた。
 - 日本海北部マガレイ、ハタハタ資源回復計画（2003年7月水産庁）
 - ブリコの採捕、所持、販売を禁止している（青森県漁業調整規則第39条）
- ☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・ハタハタの漁獲量は年変動が大きいことから、漁期前に漁獲対象資源量、来遊時期、年齢組成について予測を行っている。

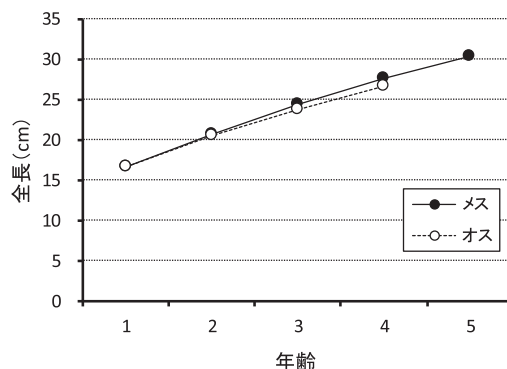


図 日本海海域におけるハタハタの成長

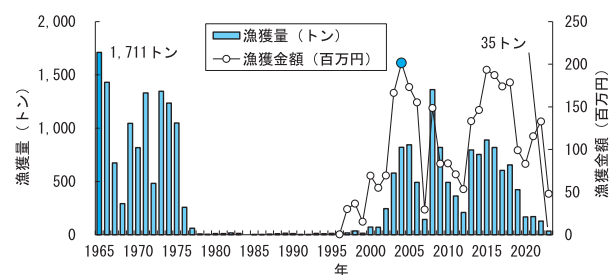


図 青森県日本海海域におけるハタハタの漁獲量の推移
※2007年までは水産総合研究所調べ、2008年以降は青森県海面漁業に関する調査結果書

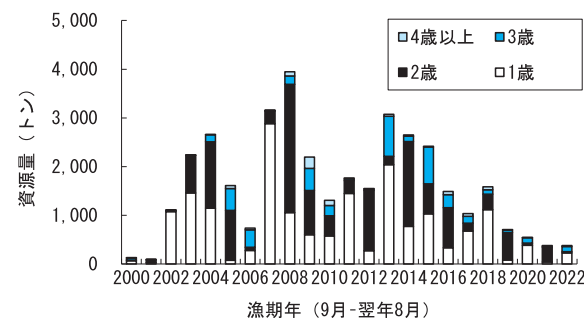


図 青森県日本海海域におけるハタハタの漁期年別資源量

イカナゴ類



地方名：ちりめん(体長 20～30mm の当歳)、こうなご(体長 30mm 以上の当歳)、
おおなご、めろうど(1 歳以上)

生態

- ①寿命：5 年以上
- ②成熟：オス、メス共に 2 歳（体長 16cm）以上
- ③産卵期：1 月～4 月
- ④産卵場：水深 50m 付近の砂礫質の海底
- ⑤分布：沖縄を除く日本各地
- ⑥生態：主に昼は遊泳し、夜間は砂の中に潜る。
7 月～10 月に夏眠する。食性は端脚類、
橈脚類、オキアミ類等の動物プランクトン。

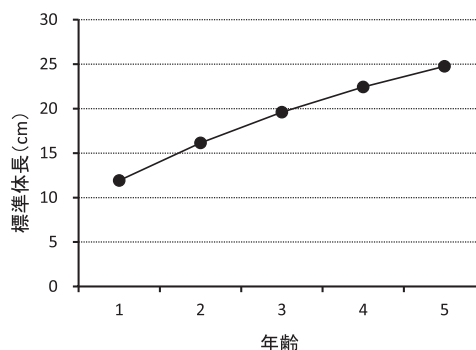


図 青森県におけるイカナゴ類の成長

出典：伊藤（2007）H17 年度青水総研セ事業報告. 30-51.

主な漁業

定置網、光力利用敷網で漁獲。陸奥湾と太平洋で主漁期は 4 月～6 月。当歳を漁獲。

漁獲の動向と水準

漁獲量は、1979 年の 1,606 トンを最後に、1980 年以降 1,000 トン以下の状況が続いたが、1995 年からは変動幅は大きいものの 1,000 トンを越えるまで回復した。しかし近年は大きく減少し、青森県における 2023 年の漁獲は皆無であった。

2023 年の漁獲水準は、長期間データを有する漁獲量を判断材料とし、その最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

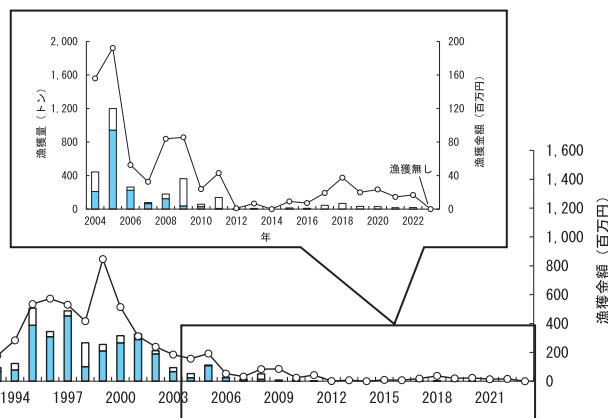
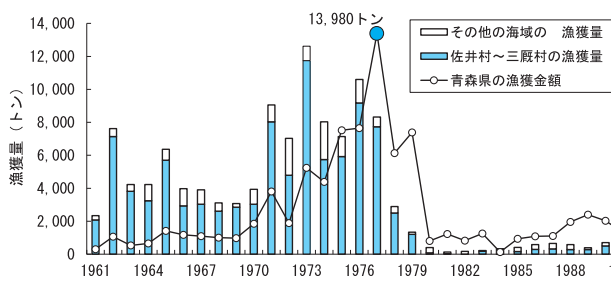
漁獲の動向



横ばい

漁獲の水準

低位



資源を上手に利用するために

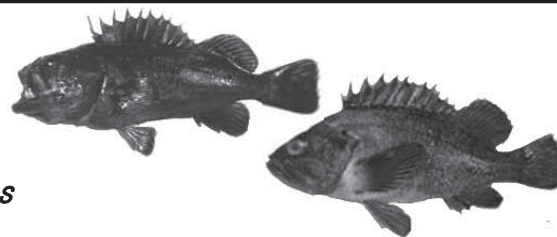
- 青森県イカナゴ資源回復計画（三厩漁協～蓬田村漁協、脇野沢村漁協、佐井村漁協、白糠漁協、泊漁協 2007 年 3 月）
 - ・漁期の短縮や操業統数の制限により、漁獲努力量を削減し、産卵親魚を保護する。
- ☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・2013 年から、三厩漁協～奥戸漁協までの陸奥湾湾口・湾内全域において、光力利用敷網漁業の操業自粛と、小型定置漁業によるイカナゴ類水揚げ禁止措置を開始し、2023 年も継続実施。

クロソイ *Sebastes schlegelii*

キツネメバル *Sebastes vulpes*



生態

[クロソイ]

- ①寿命：10年以上
- ②成熟：オス3歳以上
メス3歳以上
- ③繁殖期：12月～1月に交尾し6月～7月に産仔
- ④分布：日本各地、特に北日本に多い。朝鮮半島、中国にも分布。
- ⑤生態：卵胎生魚。成魚は沖合の岩礁域に生息。

[キツネメバル]

- ①寿命：10年以上
- ②成熟：オス4歳
メス6歳
- ③繁殖期：11月～12月に交尾し5月～6月に産仔
- ④分布：日本海沿岸、神奈川県以北の太平洋。青森県では全域に分布。
- ⑤生態：卵胎生魚。成魚は岩礁域に生息。

主な漁業

両種とも定置網、簗、一本釣等で漁獲される。クロソイは1歳、キツネメバルは3歳から漁獲される。なお、キツネメバルにはタヌキメバルも含まれるが混入率は不明。

漁獲の動向と水準

青森県海面漁業に関する調査結果書では「そい類」としてクロソイ、キツネメバル等は一括で集計され、両種の長期間の漁獲データはない。そい類の漁獲量は1976年の250トンから1989年の111トンまで減少した後、2015年まで127トン～227トンの範囲で増減し、2016年以降増加に転じ2018年に280トン进行したが、2023年に204トンと減少した。

2023年のクロソイとキツネメバルの漁獲水準は、青森県産業技術センター水産総合研究所が調べた2001年以降の県内主要漁協の漁獲量の最高値と最低値との間を3等分し、上から高位、中位、低位とすると、クロソイ、キツネメバル共に、中位であった。

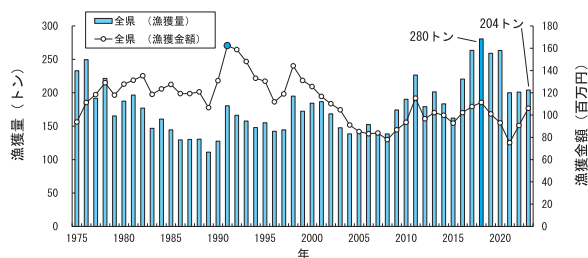


図 青森県におけるそい類の漁獲量及び漁獲金額の推移

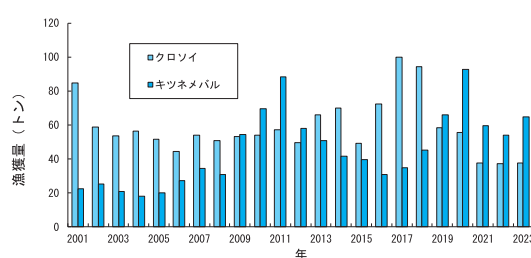


図 主要漁協のクロソイ、キツネメバルの漁獲量（水総研調べ）

資源を上手に利用するために

○資源管理計画（風合瀬漁協 1995年3月）

- ・クロソイについて15cm未満個体の再放流、荷受け制限を定めた。
- ☆上記のような小型魚の漁獲を自粛する取組を継続することが必要である。

トピックス

公益社団法人青森県栽培漁業振興協会と青森県産業技術センター水産総合研究所はキツネメバルの標識放流と市場調査を行っている。2023年12月に北金ヶ沢地先の船上から左腹鰭を抜去した稚魚1.0万尾を放流した。

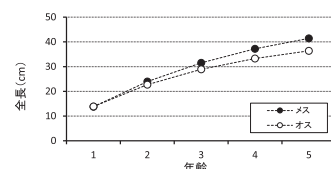


図 青森県クロソイの成長
出典：山内（1994）H5年度放流技術開発事業報告書クロソイ班 77-89。

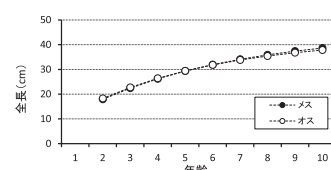


図 青森県キツネメバルの成長
出典：吉田ら（2020）H30年度青産技セ水総研事業報告書 398-402。

[クロソイ]

漁獲の動向



減少

漁獲の水準

中位

[キツネメバル]

漁獲の動向



横ばい

漁獲の水準

中位

ウスメバル *Sebastes thompsoni*

地方名：てんから（小泊）、てり（岩崎）、つき



生態

- ①寿命：10 年以上
- ②成熟：3 歳（尾叉長 18cm）以上
- ③産仔期：12 月ごろ交尾し翌年 4 月～5 月にかけて産仔。
- ④分布：日本海では石狩湾から対馬海峡まで、太平洋では函館から銚子まで。
- ⑤生態：卵胎生魚。体長 4mm～5mm で産出。体長約 16mm まで表層で浮遊生活。体長 40mm～60mm までを流れ藻に付随して生活。その後ごく沿岸で底生生活を送り、成長と共に沖合に移動。3 歳以上になると 80m～150m の岩礁域に生息。

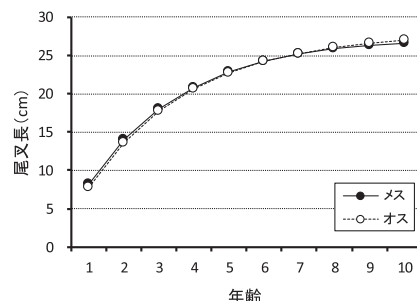


図 青森県日本海海域におけるウスメバルの成長

出典：菊谷（2001）メバル類の資源生態の解明と管理技術開発. 37-43.

主な漁業

青森県日本海では 6 月～8 月に刺し網で、一本釣では周年漁獲され、盛漁期は 5 月～8 月。主に水深 80m～150m で漁獲される。日本海以外の海域では一本釣、本県太平洋北部では 5 月～6 月に底建網により漁獲される。3 歳～4 歳から漁獲される。

資源の動向と水準

青森県の漁獲量は、2011 年以降の減少傾向から 2017 年に増加に転じたものの、2023 年には 283 トンと減少した。

2023 年の資源動向は、コホート解析により推定した資源量の直近 5 年間の傾きから減少、資源水準は、コホート解析により推定した資源量と過去の漁獲量の推移を判断材料とし、低位と判断した。

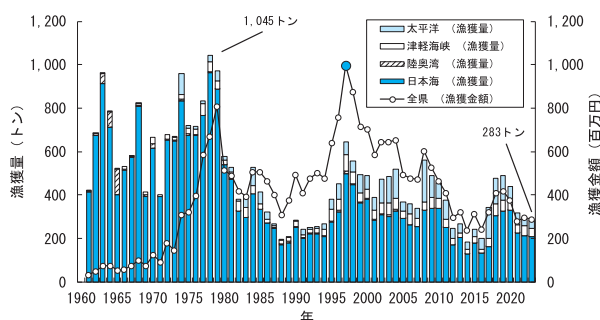


図 青森県ウスメバルの漁獲量及び漁獲金額の推移

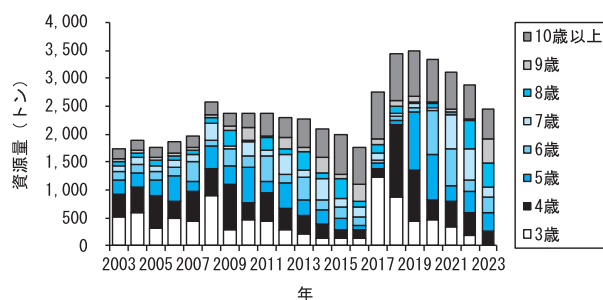


図 青森県ウスメバルの年齢別資源量の推移

資源の動向



減少

資源の水準

低位

資源を上手に利用するために

- 資源管理計画（小泊漁協、下前漁協 1993 年 3 月）
- 青森県ウスメバル資源回復計画（大間越漁協～岩屋漁協 2007 年 3 月）
- ・小型魚の荷受け制限、休漁日の設定（日本海のみ）を定めた。
- ☆上記のように小型魚漁獲を自粛する取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・陸奥湾で採集した稚魚を中間育成し標識放流及び種苗放流を行っている。2010 年以降では 21,988 尾の標識放流が行われ 9 尾の再捕があった。2023 年は平均全長 16.8cm の 2 歳 509 尾にダートタグの標識を施して放流した。

キアンコウ *Lophius litulon*

地方名：あんこう、あんこ、げろ（鰐ヶ沢町）



生態

- ①寿命：15 年以上
- ②成熟：メス体長 50cm 以上
- ③産卵期：津軽海峡では 6 月～7 月
- ④分布：北海道以南から朝鮮半島沿岸および東シナ海まで分布
- ⑤生態：主に水深 200m 以浅の大陸棚上に生息。水温の変化や産卵活動に伴い深淺移動を行う。水深 50m～80m の海底から容易に水面付近まで浮上することが可能である。

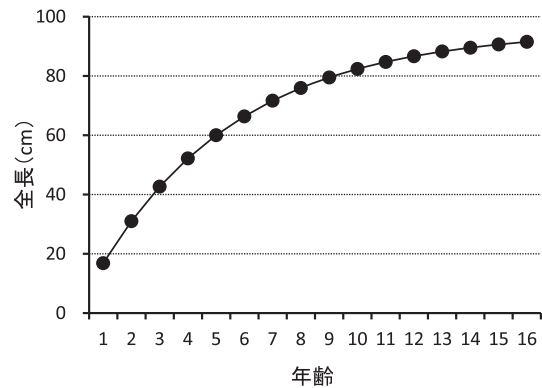


図 青森県におけるキアンコウの成長

出典：竹谷ら（2017）日水誌. 83, 9-17.

主な漁業

キアンコウはほぼ周年にわたって県内全域で漁獲される。太平洋、日本海では底びき網、津軽海峡、陸奥湾では刺し網、底建網等での漁獲が多い。冬季及び春季から夏季に多く漁獲されるが、春季から夏季には価格が極端に安くなる。

漁獲の動向と水準

キアンコウの漁獲量は、青森県海面漁業に関する調査結果書では 2005 年から集計されており、それ以前の漁獲データはない。漁獲量は 2005 年以降、2009 年まで 900 トン前後で推移していたが、その後は減少した。2016 年に増加に転じて、以降は横ばいが続き 2023 年の漁獲量は前年より微増して 474 トンであった。

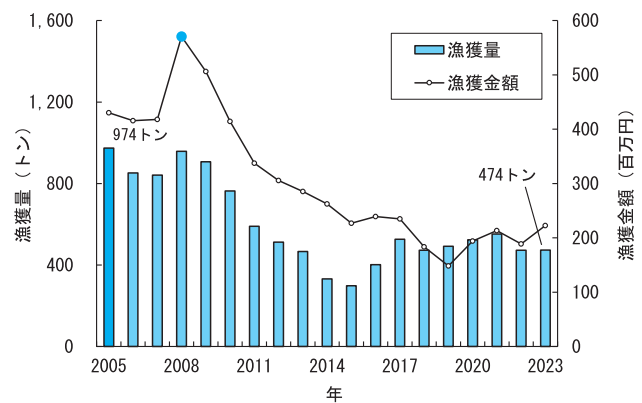


図 青森県におけるキアンコウの漁獲量及び漁獲金額の推移

漁獲の動向



横ばい

資源を上手に利用するために

○風間浦村きあんこう資源管理指針（風間浦村きあんこう資源管理協議会 2009 年 10 月）

・全漁業種類において、体重 2 キログラム未満の生存個体の再放流について定めた。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・青森県産業技術センター水産総合研究所等は、背鰭第一棘による年齢査定法と外観による性判別法を開発した。今後は、これらの技術を活用した資源量推定技術の確立が期待される。
- ・2021 年 1 月に風間浦村で水揚げされた体重 8.2kg のキアンコウの胃から海鳥のウトウが発見された。（野呂（2021）水と漁. 第 36 号.）

ウバガイ *Spisula sachalinensis*

太平洋海域

地方名：ほっきがい、ほっき



生態

- ①寿命：30 年以上
- ②成熟：3 歳～4 歳以上
- ③産卵期：5 月下旬から 6 月上旬（水温 13～14℃）
- ④分布：冷水域の外洋に面した浅海域（水深 20m 以浅の砂底質）
- ⑤生態：受精後 3 週間～4 週間の浮遊生活を送り、その後、殻長 260 μ m～300 μ m に成長すると着底する。着底直後の稚貝は足糸を出して砂粒等へ付着するが、付着力が弱いので、波浪や潮流等による減耗が大きい。

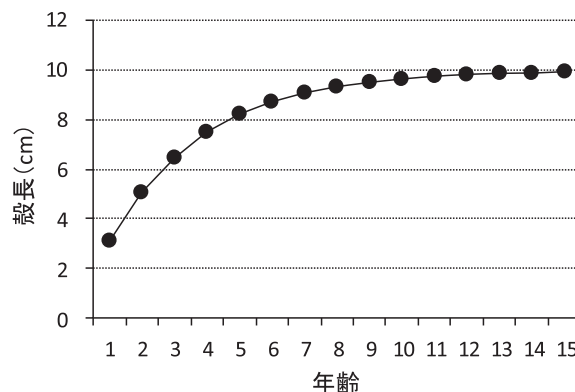
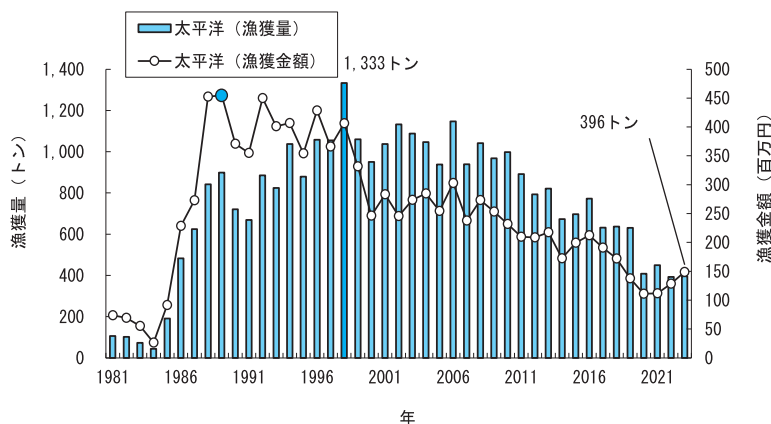


図 青森県におけるウバガイの成長

出典：杉浦ら (2017) 青産技セ水研研報. 10, 1-7.

主な漁業

八戸市から六ヶ所村沿岸の砂浜域において、ほっきがいた網漁業にて漁獲される。ウバガイは砂の中に棲んでいるため、けたと呼ばれる爪のある漁具に袋網をつけて、海底をひっかくように曳いて漁獲する。現在は貝を傷付けないようにポンプで水流を送り砂から掘り起すような噴流式のけた網が主流である。



漁獲の動向と水準

図 青森県太平洋海域におけるウバガイの漁獲量及び漁獲金額の推移

漁獲量は 1985 年以降増加し、1998 年に最高 1,333 トンに達した。その後は漸減傾向にあり、2023 年の漁獲量は 396 トンであった。

2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

資源を上手に利用するために

☆資源量を把握し、資源状況に見合った漁獲を行う必要がある。

☆青森県漁業調整規則第 39 条により、殻長 7cm

以下及び 5 月 1 日～11 月 30 日の採捕を禁止しており、これを遵守する必要がある。

- ・三沢市漁協、百石町漁協、市川漁協、八戸みなと漁協の 4 漁協で「北浜海域ほっき貝資源対策協議会」を組織し、資源量調査や 1 日の漁獲量の上限を設定するなどの取り組みをしている。

トピックス

- ・百石町漁協では、燃油高騰対策などのために、1998 年漁期から 2 経営体が 1 隻で操業する共同操業を行ってきたが、2007 年漁期からは 5 経営体が 1 隻で操業する共同操業を実施している。
- ・三沢市漁協では、2005 年漁期から 2 経営体が 1 隻で操業する共同操業を実施している。



サザエ *Turbo sazae*



生態

- ①寿命：8 年程度
- ②成熟：殻高 60mm 以上
- ③産卵期：8 月頃から（水温 20℃以上）
- ④分布：北海道南部から九州、朝鮮半島
- ⑤生態：受精後 3 日～4 日程度は浮遊生活。殻高 0.3mm 前後で水深 3m 前後の海底に着底。潮間帯から水深 30m 程度までのツルアラメ、コンブ、ホンダワラ類、アナアオサなどが生育する岩盤又は転石地帯に生息する。一般に稚貝は浅所に多く、成長に伴い深所に移動する。貝殻の突起は静穏な磯場のものでは小さいか消失するとされる。夜行性。生息可能な下限水温は 6℃～7℃。成長できる水温は 12℃～30℃。

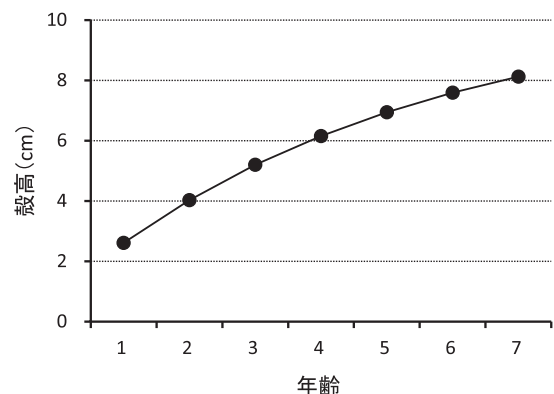


図 青森県におけるサザエの成長（深浦）

出典：須川ら(1982) S55 年度青水増事業概要. 11. 231-234

主な漁業

刺し網、ほこやたもを使った底見で漁獲される。津軽海峡大間崎周辺から日本海に至る沿岸で採捕されるが、水温が比較的高い日本海沿岸域で漁獲量が多い。漁期は春季から夏季が中心。

漁獲の動向と水準

1984 年に発生した異常冷水のため、1985 年には漁獲量が 39 トンまで大幅に落ち込んだ。その後、1991 年までに一旦回復したものの、それ以降は 23 トン～140 トンで大きく変動している。

近年の漁獲量は 2019 年に 1981 年以降で最低の 16 トンに減少（2017 年～2018 年に発生したへい死が原因と推測）したものの、2020 年からは回復傾向となっており、2023 年には 63 トンとなった。

2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

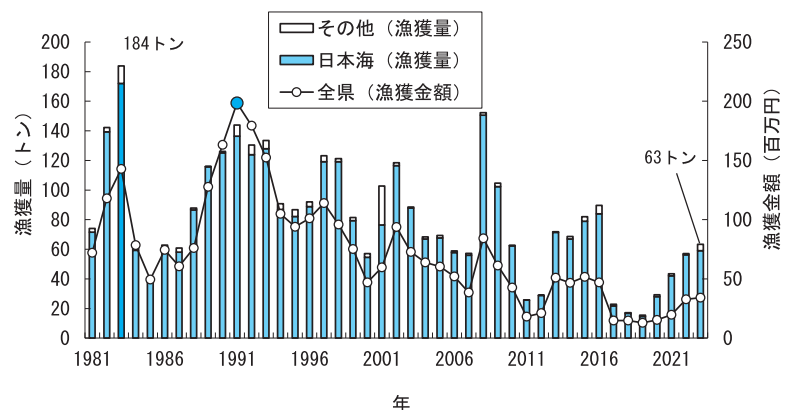


図 青森県におけるサザエの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

○資源管理計画（深浦漁協 1993 年 3 月）

・殻高 6cm 以下小型個体の保護を検討することとした。

☆上記取組など、成熟前の小型個体を獲り過ぎないようにすることが必要である。

エゾアワビ *Haliotis discus hannai*



生態

- ①寿命：約 20 年
- ②成熟：2 歳～3 歳以上（殻長 5 cm 以上）
- ③産卵期：8 月～11 月頃（水温 17℃～24℃）
- ④分布：クロアワビの北方型であり、茨城県以北の太平洋、津軽海峡、噴火湾、北海道の日本海沿岸など、冬季に水温が 12℃以下に降下する海域に生息する。
- ⑤生態：受精後 4 日～8 日間浮遊生活し、潮間帯から水深 3m 前後の岩盤や転石帯に着底したのち、成長にともなって潮下帯から水深 20m にかけての岩礁や転石に移行する。コンブ、ワカメ、ホンダワラ類、アナオサなどの海藻を好み、それら海藻の現存量が高い海域に多く生息する。夜行性。水温 7℃以下及び 27℃以上で摂餌量が減少し、水温 15℃～20℃の範囲ではよく成長する。水温及び餌料となる海藻の種類と量によって、成長が大きく異なる。

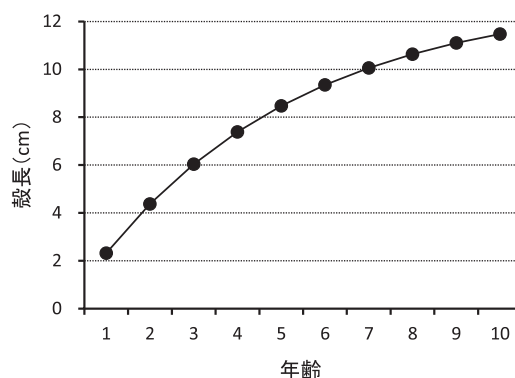


図 青森県におけるエゾアワビの成長（八戸）
出典：青森県水産増殖センター（1981）青水増資料 S. 56-
No. 9, 57pp

主な漁業

本県全沿岸に生息するが、津軽海峡から太平洋沿岸で多く漁獲される。鉤やほこを使った底見、潜水によって冬季を中心に漁獲される。

漁獲の動向と水準

漁獲量は、1970 年に過去最高の 218 トンを記録し、1983 年までは 100 トンを上回っていたが、異常低水温によるへい死が報告された 1984 年に急減した。その後、天然発生の不調が続いたことなどにより 1989 年から 7 年間 27 トン以下に留まったものの、1996 年以降は 30 トン～70 トンで推移した。近年は減少傾向が続いていたが、2022 年から微増に転じ、2023 年は 19 トンであった。

2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

資源を上手に利用するために

☆青森県漁業調整規則第 39 条により、殻長 9cm 以下及び 8 月 1 日～10 月 31 日の採捕を禁止しており、これを遵守する必要がある。

☆身入りや成長が劣る漁場ではマコンブ養殖などの給餌や磯焼け対策が効果的である。

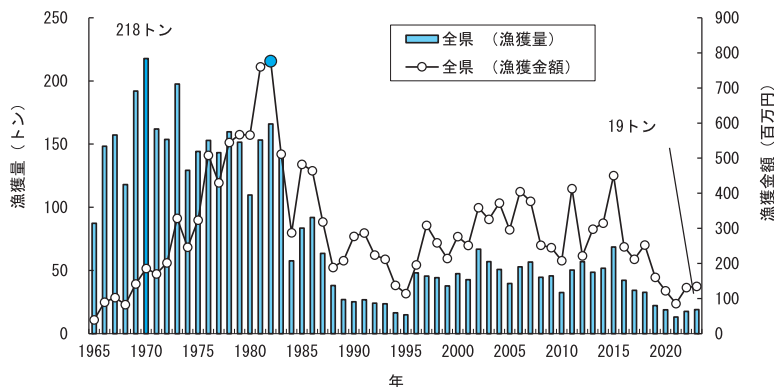


図 青森県におけるアワビの漁獲量及び漁獲金額の推移

漁獲の動向



横ばい

漁獲の水準

低位

ヤリイカ *Heterololigo bleekeri*

地方名：みずいか



生態

- ①寿命：1 年
- ②成熟：12 月～翌年 5 月
- ③産卵期：12 月下旬～翌年 5 月
- ④産卵場：水深 100m 以浅の岩礁帯
- ⑤分布：九州から北海道までの日本列島沿岸、
黄海全域と東シナ海東部海域
- ⑥生態：ふ化後、1 ヶ月程の浮遊生活を経て、
水深 30m～40m 程度の海底へと生活の
場を移し、その後、昇温と共に徐々に
陸棚域まで移動する。

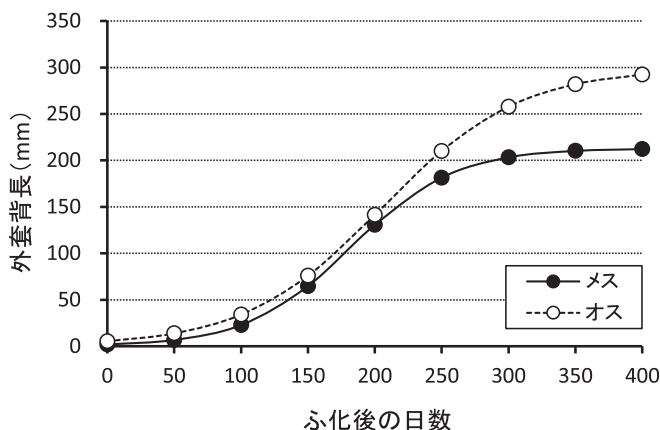


図 青森県におけるヤリイカの成長

出典：木下（1989）西水研研報，67，59-68.

主な漁業

底建網、小型定置、底びき網、光力利用敷網で漁獲。主漁期は 11 月～翌年 5 月。

漁獲の動向と水準

1960 年以降の統計では 1985 年に 543 トンと過去最低の漁獲量を記録後、増加に転じ、2,000 トン～4,000 トンで推移したが、2002 年に 1,200 トン台までに急激に落ち込んだ。その後は再び増加していたが、2009 年以降は再び減少に転じ 1,000 トン前後で推移しており、2023 年の漁獲量は 1,030 トンであった。

2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

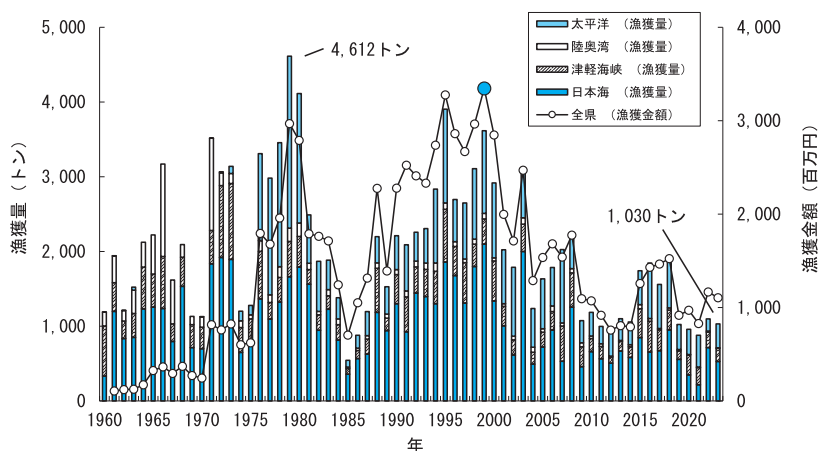


図 青森県におけるヤリイカの漁獲量及び漁獲金額の推移

漁獲の動向



漁獲の水準

横ばい

低位

トピックス

- ・青森県産業技術センター水産総合研究所では、毎年 12 月に青森県～北海道渡島地方～岩手県沿岸で漁獲されるヤリイカ冬季来遊群の漁況予測を行なっている。

ミズダコ *Enteroctopus dofleini*

津軽海峡海域

地方名：（メス）まだこ、（オス）みずだこ、しおだこ



生態

- ①寿命：オス 4 年 5 ヶ月、メス 5 年。オスは交配後、メスは産卵、卵保護後死亡。
- ②成熟体重：オス 9.8kg 以上、メス 8.5kg 以上。メスの最小交配個体は体重 10.6kg。
- ③産卵期：青森県内での産卵は未確認。成熟状況から津軽海峡沿岸の産卵期は 3 月～5 月と推定。
- ④産卵場：岩棚に房状の卵を産み付け、ふ化までメスが保護する。
- ⑤分布：日本～北アメリカの北部太平洋岸に分布。国内では北海道から日本海側は五島列島、太平洋側は相模湾まで。
- ⑥生態：青森県では沿岸全域の水深 2m～350m 以浅の岩礁域や砂礫質の海底に生息する。
- ⑦成長：年齢形質は不明。標識放流等の結果から、成長は個体差が大きく、雌雄差はない。2 歳～5 歳に成熟体重に達する 4 グループを確認。

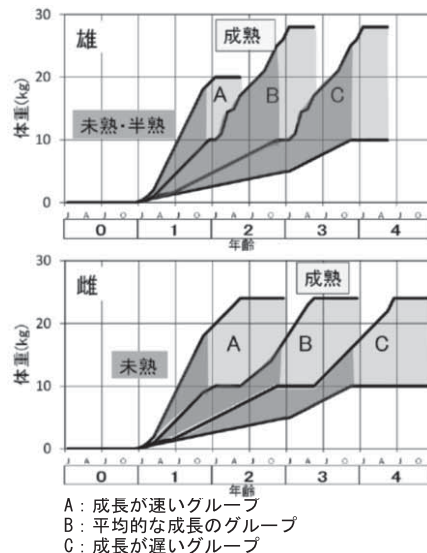


図 津軽海峡におけるミズダコの成長

出典：野呂・桜井（2012）水産増殖，60，429-433.

主な漁業

タコたる流し、タコ籠、タコ箱、底建網、刺し網などで漁獲され、主な漁場はごく沿岸から水深 80m 付近まで。太平洋、日本海では底びき網でも漁獲。

漁獲の動向と水準

津軽海峡海域での漁獲量は、1985 年までは概ね 1,000 トン以下であったが、1986 年に 1,945 トンに急増した。その後 1,000 トン～2,000 トンの間で推移したが、2010 年に減少して以来、低位水準が続き、2023 年には前年を下回る 528 トンとなった。

2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

資源を上手に利用するために

- 1990 年 10 月に県漁連が主体となって小型個体の再放流、販売禁止、操業期間の制限が定められ、現在は体重 3kg 未満の再放流、禁漁期間を 7 月 1 日～10 月 31 日としている。
- ☆上記のような取組を継続することが必要である。

トピックス

- 津軽海峡で放流されたミズダコは、津軽海峡外へほとんど移動せず、また一部の個体は津軽海峡を横断し、対岸へ移動する。青森県産業技術センター水産総合研究所と北海道立総合研究機構水産研究本部との共同研究から、津軽海峡に分布するミズダコは一つの集団であると考えられている。
- 2014 年から脱出口付改良籠の実証試験を行った結果、改良籠ではミズダコ小型個体の漁獲割合が低下し、小型資源保護に繋がると考えられた（長野ら（2019），青森県のタコ籠漁業における小型個体脱出用リングの有効性の検証，水産工学，56，1，pp27～33）

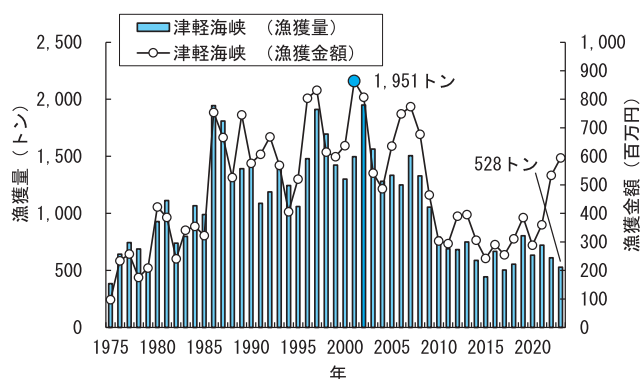


図 青森県津軽海峡海域におけるたこ類の漁獲量及び漁獲金額の推移

※ミズダコ以外のたこも含むが、津軽海峡では大半がミズダコ。



キタムラサキウニ *Mesocentrotus nudus*



地方名：のな、くろかぜ

生態

- ①寿命：15 年程度
- ②成熟：殻径 4 cm 以上
- ③産卵期：7 月～10 月（水温 15～20℃以上）
- ④分布：相模湾、若狭湾以北の本州と北海道沿岸
- ⑤生態：冷水性ウニであり、へい死の危険性が高まる水温帯は 26℃以上にあるとされる。受精後 1～2 か月間の浮遊生活後に着底し、潮下帯から水深数十メートルにある岩礁や転石帯に広く分布する。コンブ、ワカメ、ホンダワラ類やそれらの流れ藻を摂餌する。高水温期を除き、1 日に体重の 5%～10%を摂餌し、磯焼けの発生・持続要因となる。

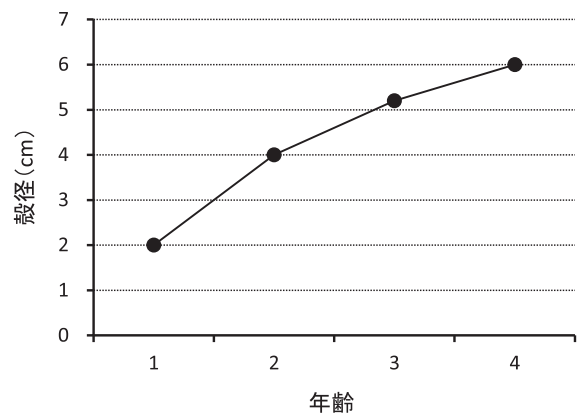


図 青森県におけるキタムラサキウニの成長

主な漁業

県内の各沿岸海域でほこやたもなどの漁具及び潜水で採捕されるほか、下北半島沿岸ではウニ簀、津軽半島沿岸ではけた曳き網で漁獲される。卵巣、精巣が食用に供されるため、成熟までの季節にあたる春から夏が漁期の中心になる。磯焼け域や深場など海藻が少ない海域では身入りが進まず、商品価値を欠くため漁獲されないことがある。

漁獲の動向と水準

漁獲量は 1979 年に 1,894 トンを記録した後、2011 年の 515 トンまで減少傾向で推移した。その後 2015 年まで増加傾向にあったが、近年は再び減少傾向となり、2023 年の漁獲量は 257 トンであった。

2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

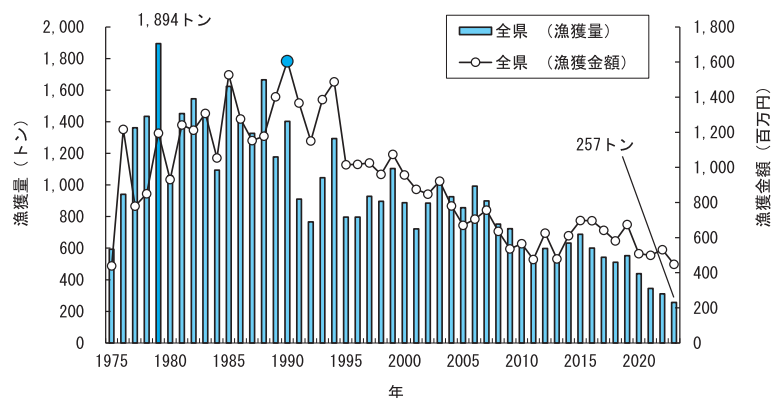


図 青森県におけるウニ類の漁獲量及び漁獲金額の推移

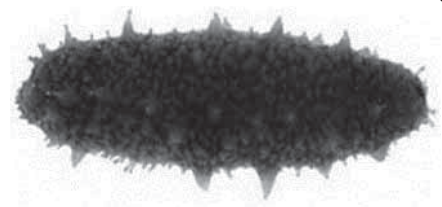
資源を上手に利用するために

☆身入りが少ないいわゆる「空ウニ」を雑海藻場に移植することにより、身入りを高めることができる。同時に、マコンブに対するウニの食害を減らすことができる。



マナマコ *Apostichopus armata*

地方名：あおなまこ、くろなまこ



生態

- ①寿命：10 年以上
- ②成熟：6 歳、約 300g
- ③産卵期：5 月～7 月（水温 13～16℃前後）
- ④分布：沖縄県を除く日本全国のほとんどの沿岸の、潮下帯から水深 40m 前後までの砂礫、転石、岩盤域
- ⑤生態：ふ化した幼生は 2 週間～3 週間浮遊生活し、稚ナマコに変態・着底する。2 歳以上は 1 年で約 60 g 成長する。浮遊幼生期間は植物プランクトンを餌とし、着底後は浮遊珪藻や付着珪藻、砂泥中の植物性有機物などを餌とする。夏の高水温期には、岩盤や転石などの隙間で、夏眠と呼ばれる休眠状態になる。マナマコは色によって区別されており、陸奥湾で漁獲されるものはほとんどがアオナマコまたはクロナマコである。様々な研究からアオナマコとクロナマコは同一であるが、アカナマコはやや異なると考えられている。ただし、別種とするかは研究者間でも意見が分かれている。別種とする場合、学名はアオナマコとクロナマコが *Apostichopus armata*、アカナマコが *Apostichopus japonicus* となる。

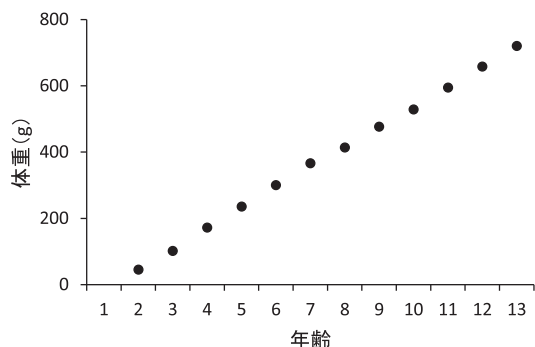


図 青森県におけるマナマコの成長(陸奥湾)

出典：遊佐(2020)R 元年度青産技セ水研事業概要年報, 75-76.

主な漁業

本県の各沿岸で漁獲されるが、陸奥湾が県漁獲量の大半を占める。けた網、たもを使った底見、潜水等で漁獲され、冬季が漁期の中心となる。

漁獲の動向と水準

1975 年以降 400 トン～900 トンで推移していた漁獲量は、1988 年の 293 トンの最低以降急増し、2007 年は 1,653 トンの最高を記録した。2014 年以降は減少傾向に転じ、2023 年の漁獲量は前年から微減して 639 トンであった。

2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

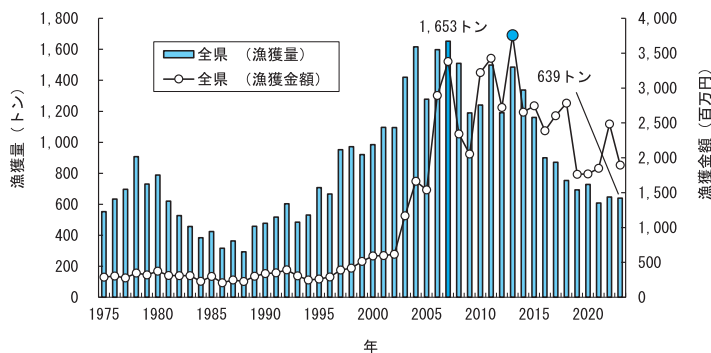


図 青森県におけるナマコの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

- 資源管理計画
(むつ市・横浜町漁協 1998 年 3 月)
 - ・操業区域の制限、稚ナマコの保護などを定めた。
- 青森県ナマコ資源管理指針 (2010 年 3 月)
 - ・小型個体の再放流や禁漁、休漁期間の設定などを定めた。

☆青森県漁業調整規則により、漁具の制限(なまこけた網：網の目合 6cm 以上)や 5 月 1 日～9 月 30 日の採捕を禁止しており、これを遵守する必要がある。

漁獲の動向



減少

漁獲の水準

低位

トゲクリガニ *Telmessus acutidens*

陸奥湾海域

地方名：はなみがに、さくらがに



生態

- ①寿命：不明
- ②成熟：甲長 50mm 以上
- ③産卵期：9 月～12 月。抱卵したメスガニは水深の浅い藻場や小砂利場に分布し砂等に潜ってあまり移動しないので、ほとんど漁獲されない。オスはメスと交尾すると生殖孔に交尾栓を植え付けて、他の雄が交尾できないように蓋をする。
- ④分布：冷水性のガニで太平洋側では北海道南部から東京湾、日本海ではサハリン南部から朝鮮半島南部。
- ⑤生態：12 月から翌 3 月頃にふ化する。その後、脱皮と変態を繰り返し、2 月から 5 月にかけて親ガニとほぼ同じ形となり、底生生活に移行する。ムラサキガイ等の二枚貝を捕食するため、他県では麻痺性貝毒の発生が見られる。
- ⑥成長：メスオス共に満 1 歳で甲長約 50mm。メスは満 2 歳で甲長約 60mm、満 3 歳で甲長約 70mm。オスは満 2 歳で甲長約 69mm、満 3 歳で甲長約 94mm。

主な漁業

簗、刺し網によって周年漁獲される。「さくらがに」、「はなみがに」と呼ばれるように漁獲のピークは 4 月～5 月。

漁獲の動向と水準

2007 年以降の陸奥湾海域の主要 9 港におけるトゲクリガニの漁獲量は、2007 年～2015 年に 30 トン前後で推移した後、2016 年の低水準を経て 2017 年以降は増加を続け、2021 年に過去最高の 121 トンを記録した。2023 年の主要 15 漁港における漁獲量は前年比約 70%の 68 トンに減少した。

2023 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、中位であった。

2017 年以降の漁獲量増加の要因として、陸奥湾東湾における 2015 年、2016 年の稚ガニの大量加入、2018 年初期の好適餌料環境、また雄の大型化が挙げられている（野呂(2021)水と漁、第 37 号.）。2022 年以降の漁獲量は依然として高水準であったものの、直近数年間は稚ガニの大量加入が生じておらず減少に転じたと考えられた。

資源を上手に利用するために

- 資源管理計画（陸奥湾海域 2000 年 3 月）
 - ・オス甲長 7cm 未満、メス甲長 6cm 未満個体、水ガニ（脱皮直後の個体）の再放流などを定めた。
- ☆上記の取組を継続することが必要である。

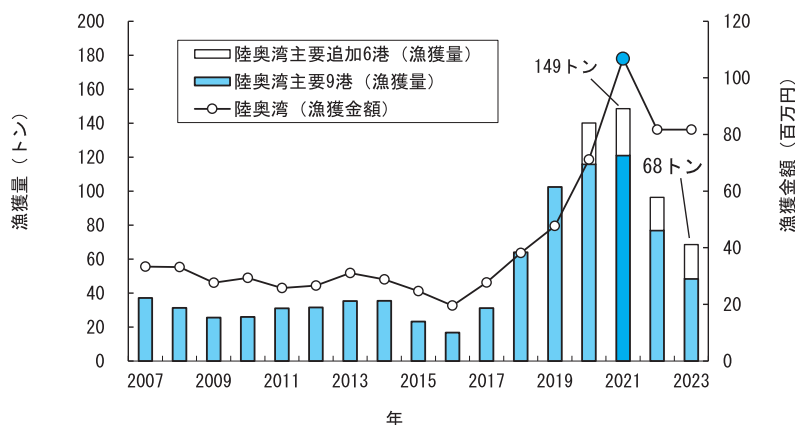


図 青森県陸奥湾海域主要漁協におけるトゲクリガニの漁獲量及び漁獲金額の推移（水総研調べ、2007～2019 年は主要 9 港、2020 年以降は主要 15 港）

漁獲の動向



減少

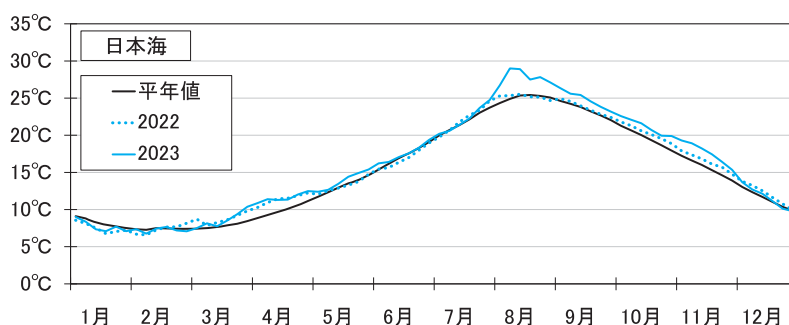
漁獲の水準

中位

青森県沿岸域の海面水温の推移

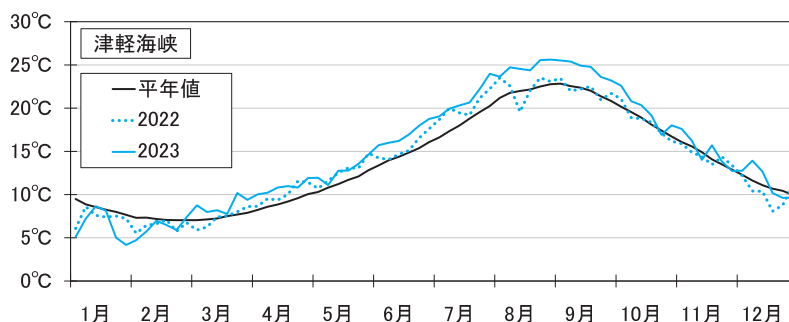
日本海沿岸

2023 年は 3 月、5 月が「やや高い」、4 月、9 月、10 月、11 月が「かなり高い」、8 月が「はなはだ高い」、その他は「平年並み」であった。



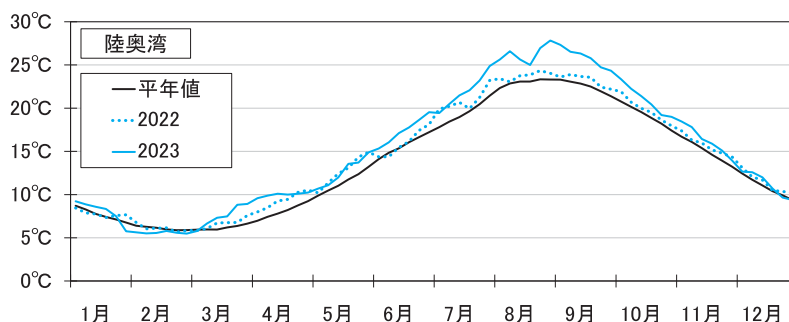
津軽海峡沿岸

2023 年は 1 月が「はなはだ低い」、2 月が「やや低い」、3 月、10 月が「やや高い」、4 月、5 月が「かなり高い」、6 月、7 月、8 月、9 月が「はなはだ高い」、その他は「平年並み」であった。



陸奥湾内

2023 年は 3 月、4 月、6 月、10 月が「かなり高い」、5 月、11 月が「やや高い」、7 月、8 月、9 月が「はなはだ高い」、その他は「平年並み」であった。



太平洋沿岸

2023 年は 3 月、5 月が「かなり高い」、4 月、6 月、7 月、8 月、9 月が「はなはだ高い」、10 月、11 月が「やや高い」、その他は「平年並み」であった。

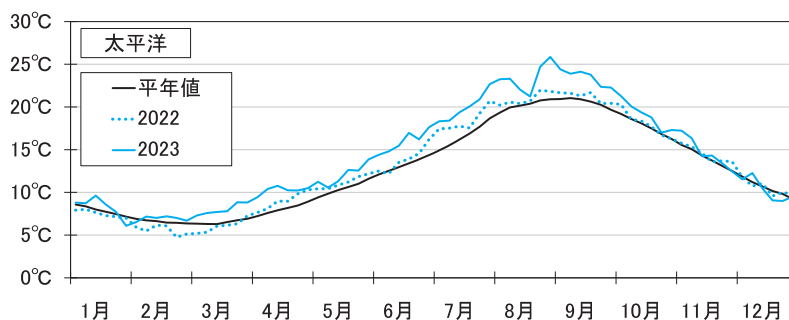


図 各海域における海面水温の推移

※水温データ

日本海沿岸、津軽海峡沿岸及び太平洋沿岸は定地水温観測値（日本海は深浦、津軽海峡は佐井、蛇浦、太平洋は尻労、泊、八戸、階上の平均値）、陸奥湾内は海況自動観測システム観測値及び定地水温観測値（平館ブイ、青森ブイ、東湾ブイ、青森、茂浦の平均値）

※水温平年値データ

1987 年～2022 年の平均値

※水温の概評

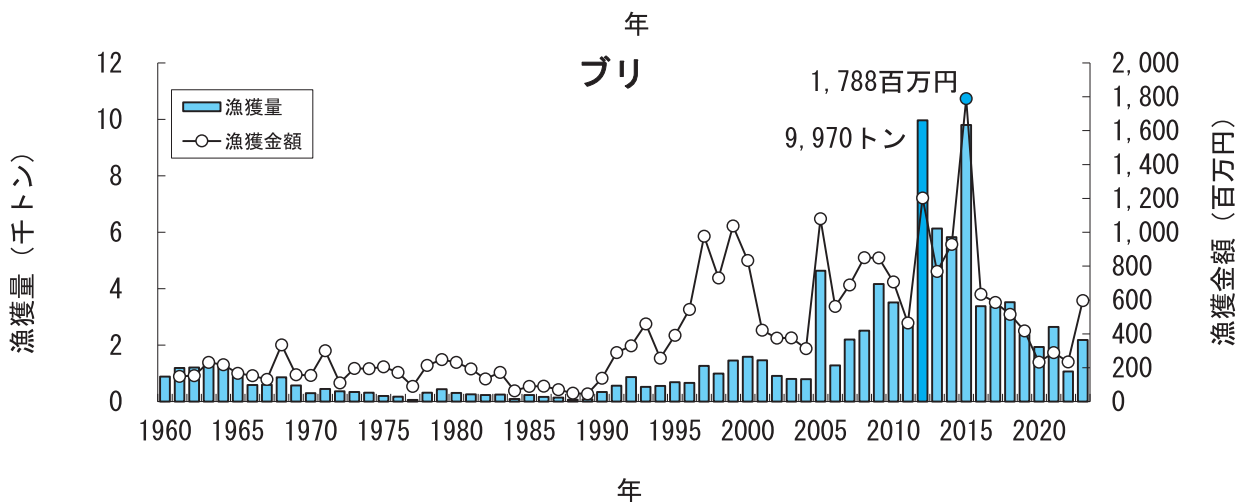
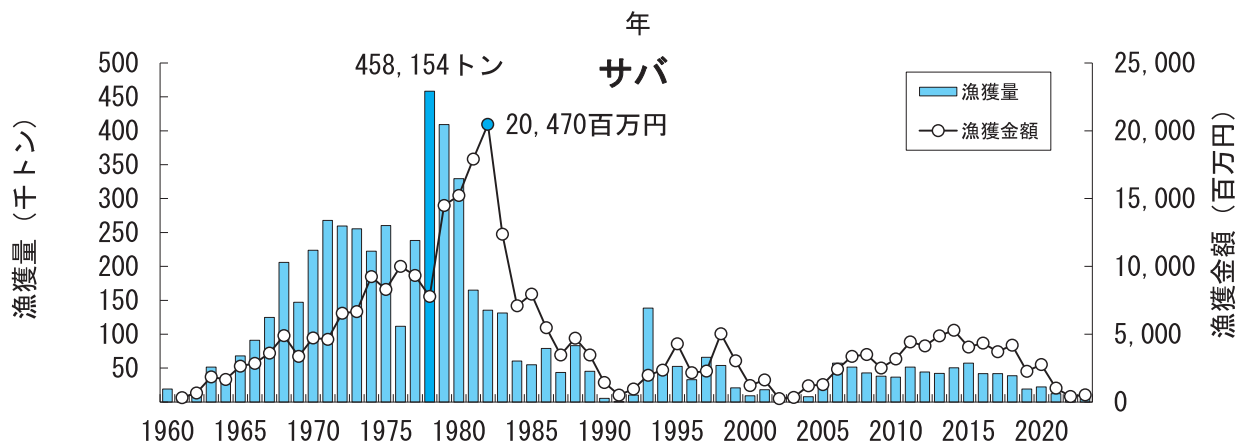
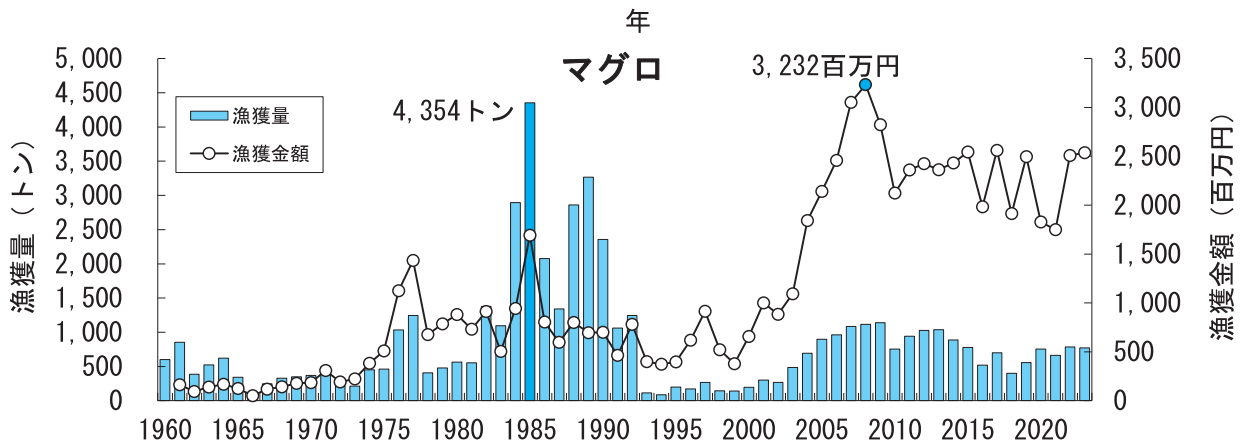
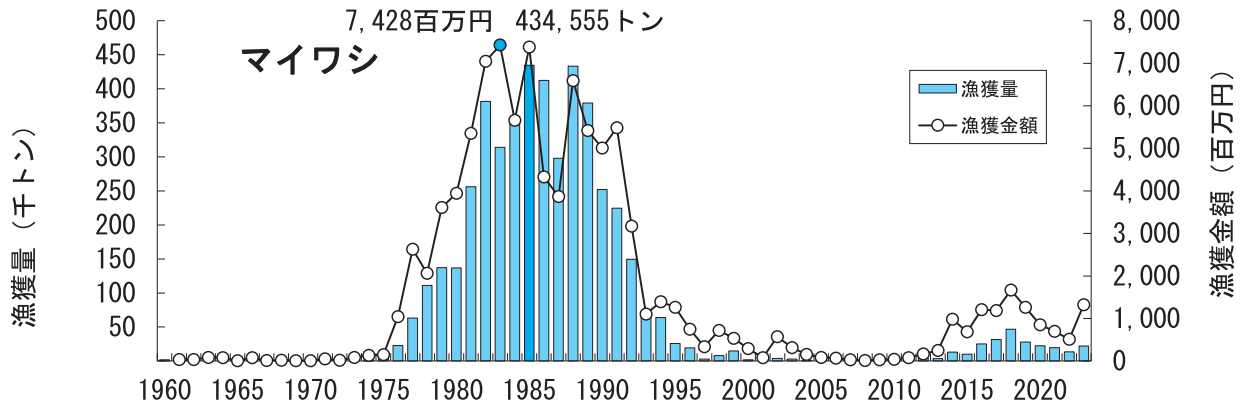
平年並み：平年差が $\pm 0.6^{\circ}\text{C}$ 未満

やや：平年差が $\pm 0.6^{\circ}\text{C}$ 以上 $\pm 1.3^{\circ}\text{C}$ 未満

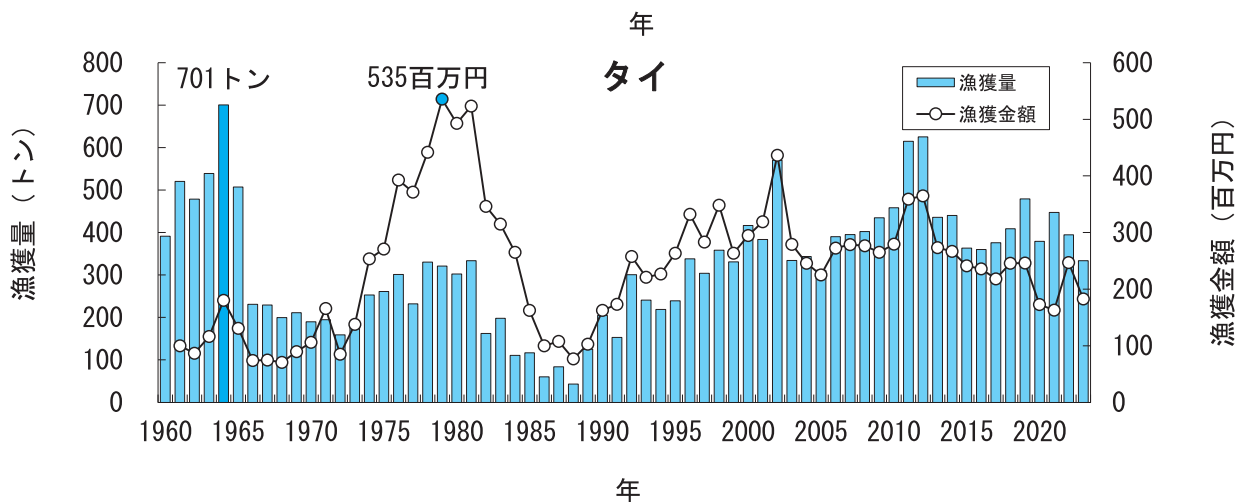
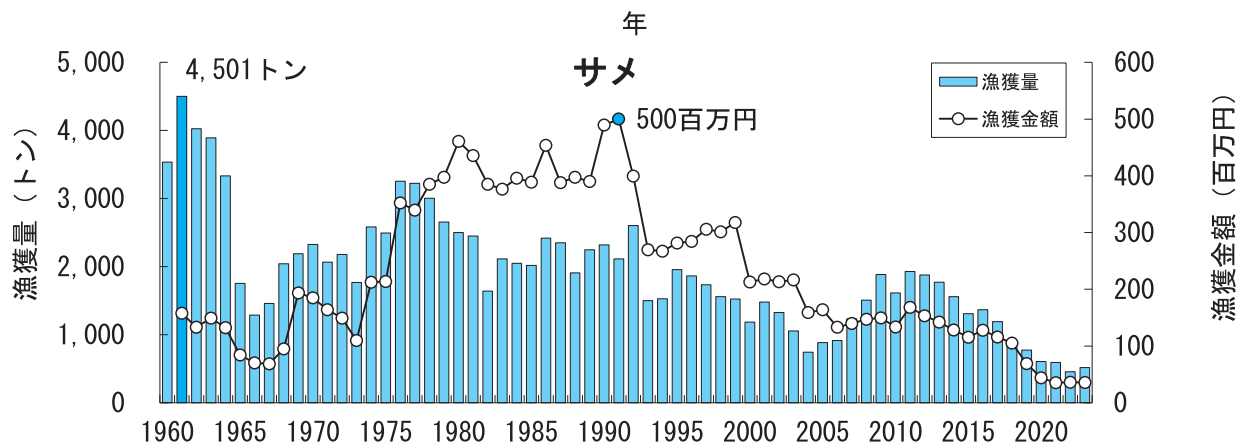
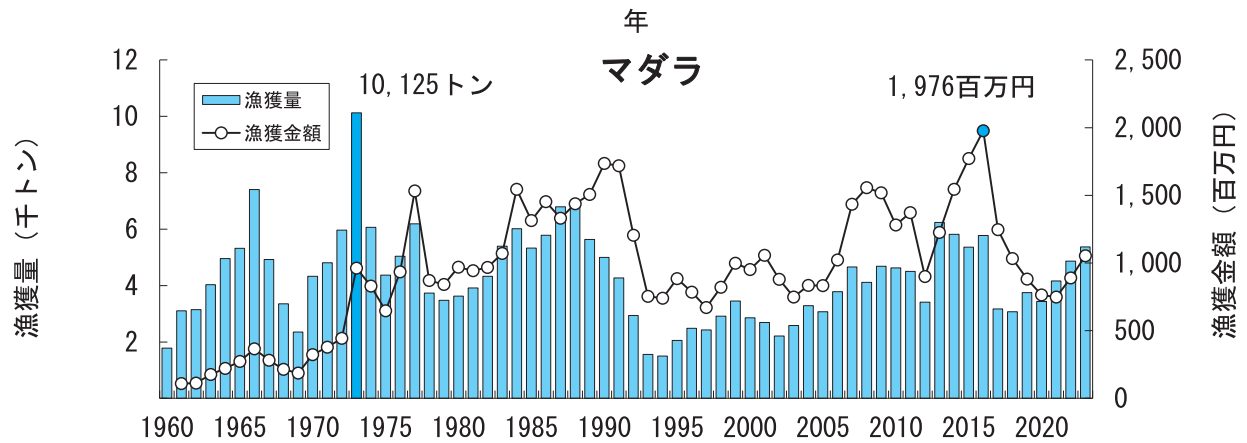
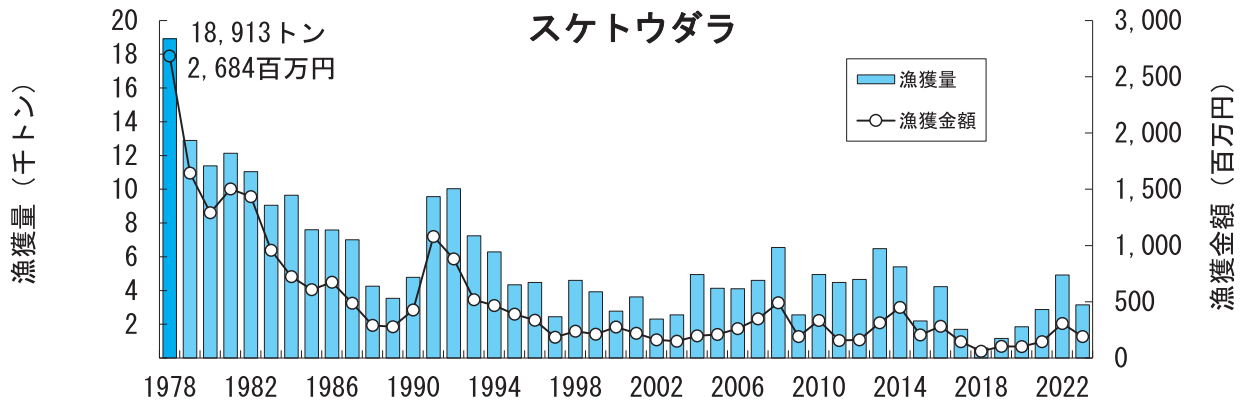
かなり：平年差が $\pm 1.3^{\circ}\text{C}$ 以上 $\pm 2.0^{\circ}\text{C}$ 未満

はなはだ：平年差が $\pm 2.0^{\circ}\text{C}$ 以上

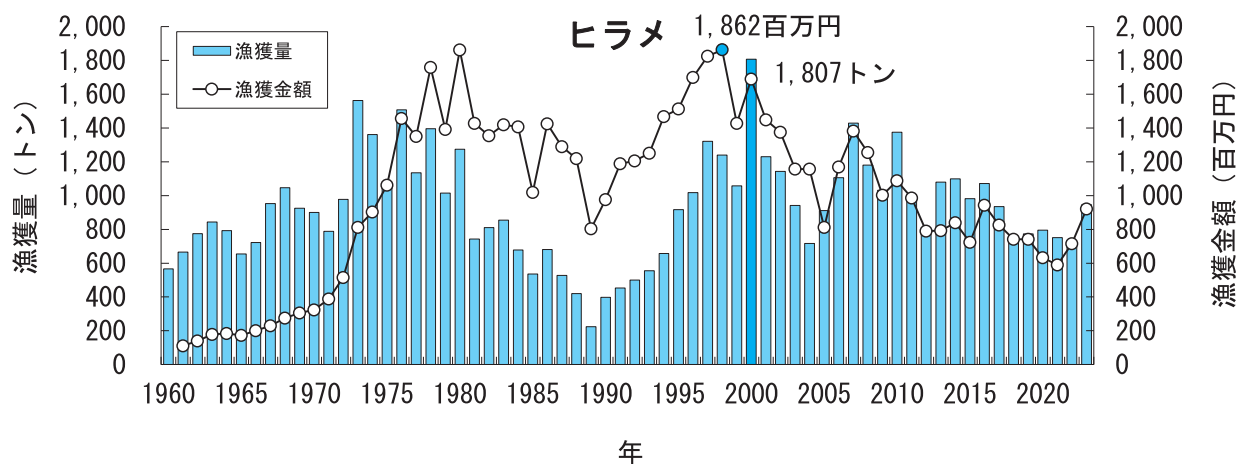
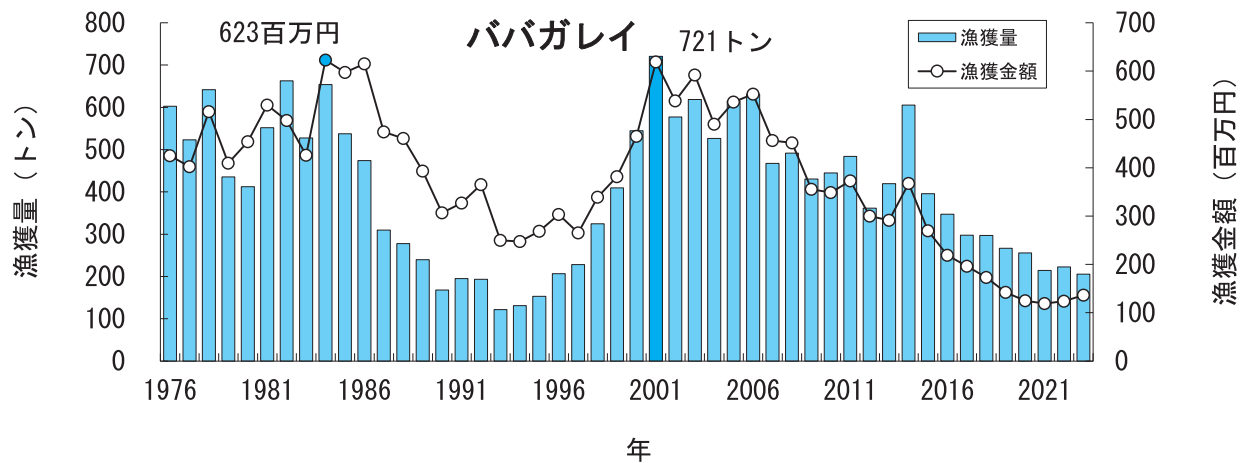
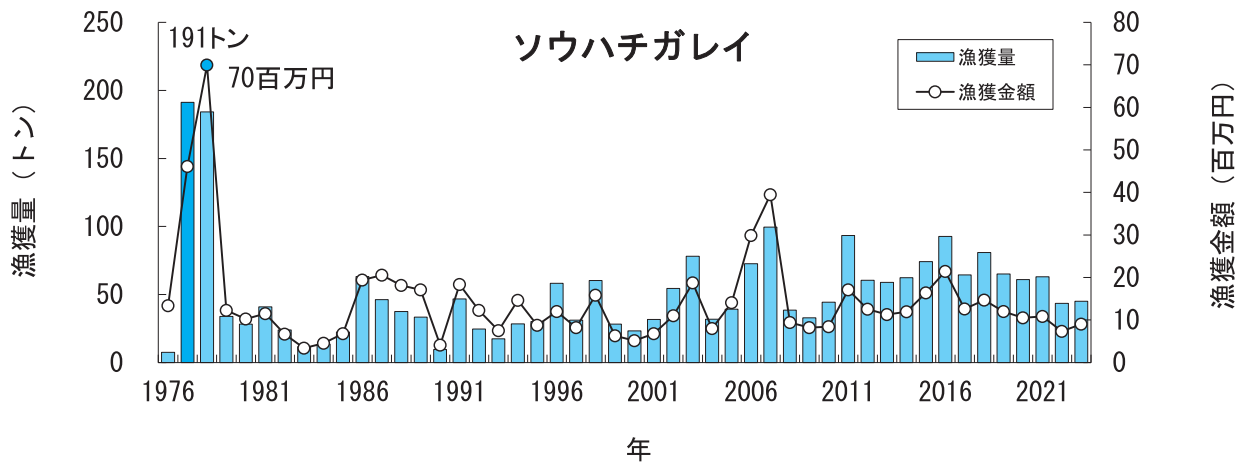
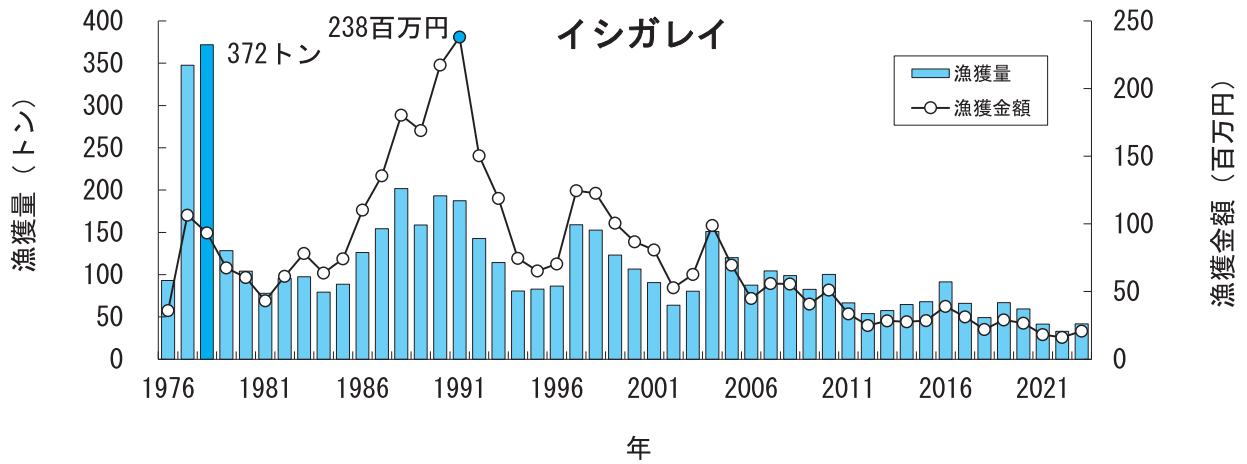
青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



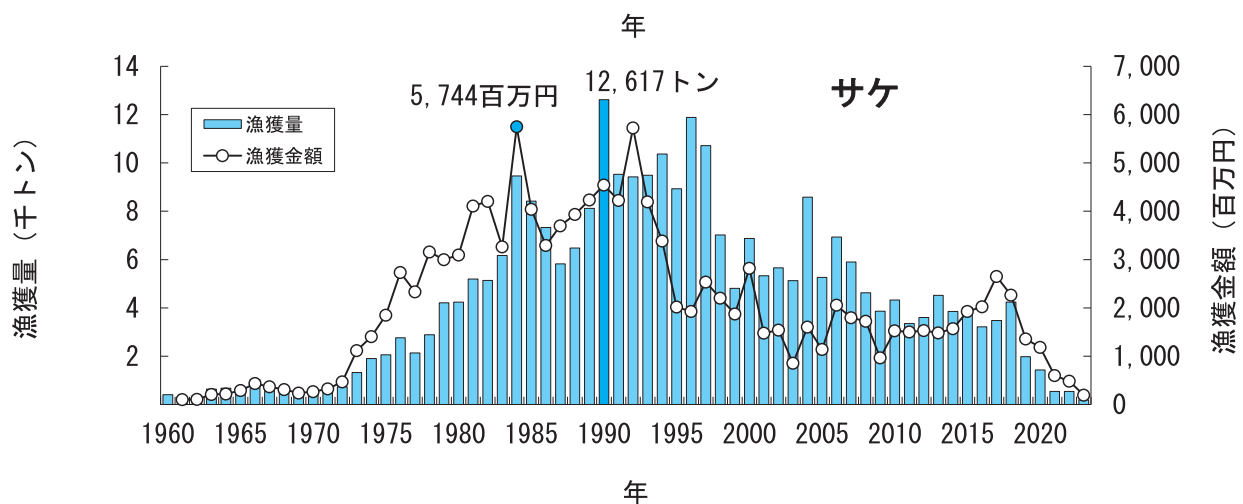
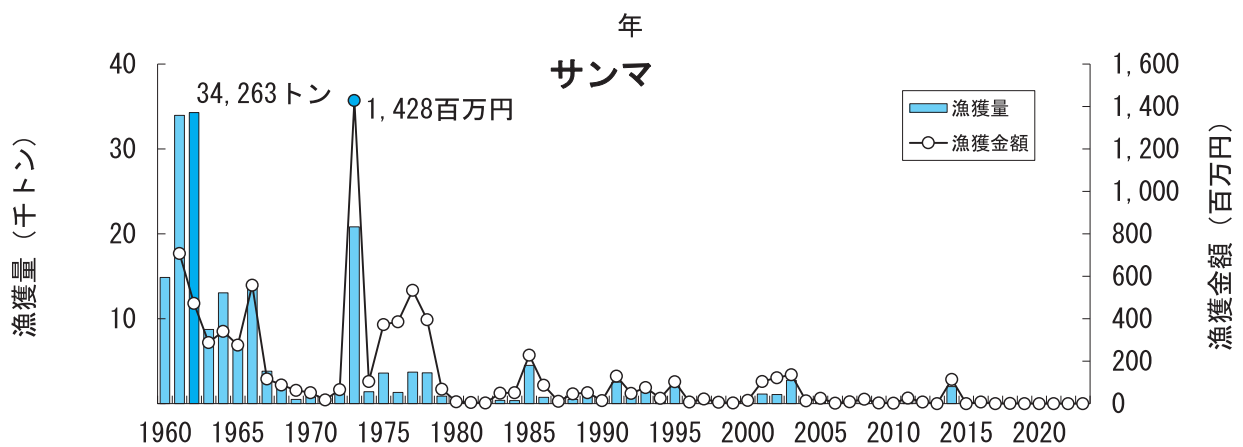
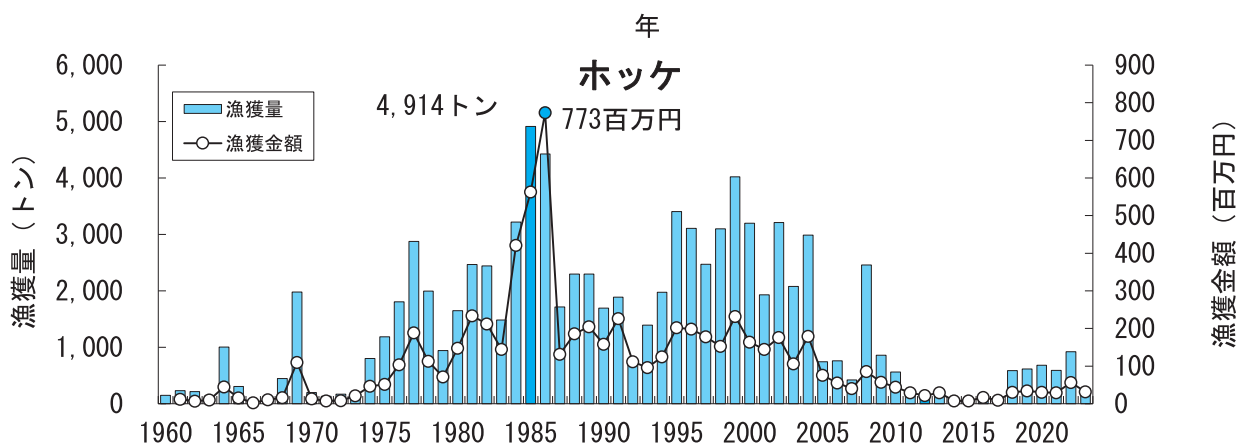
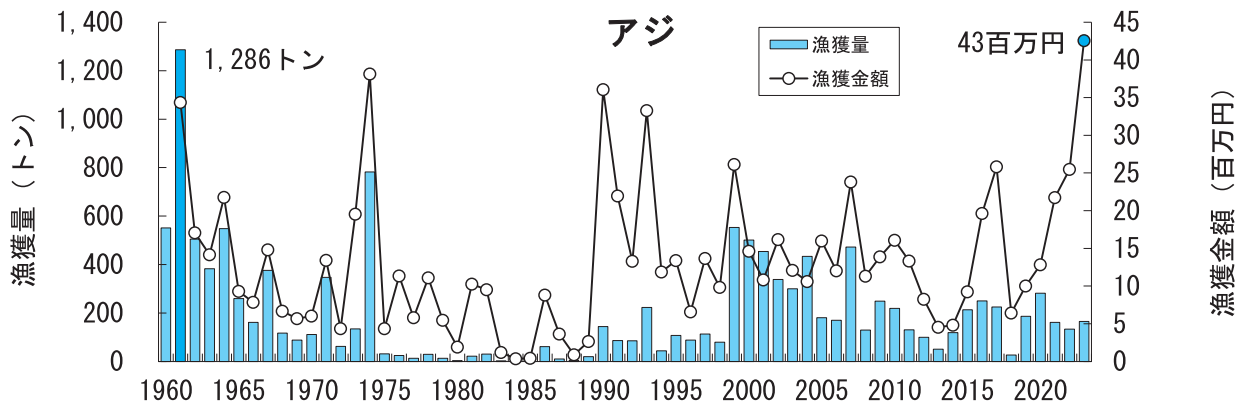
青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



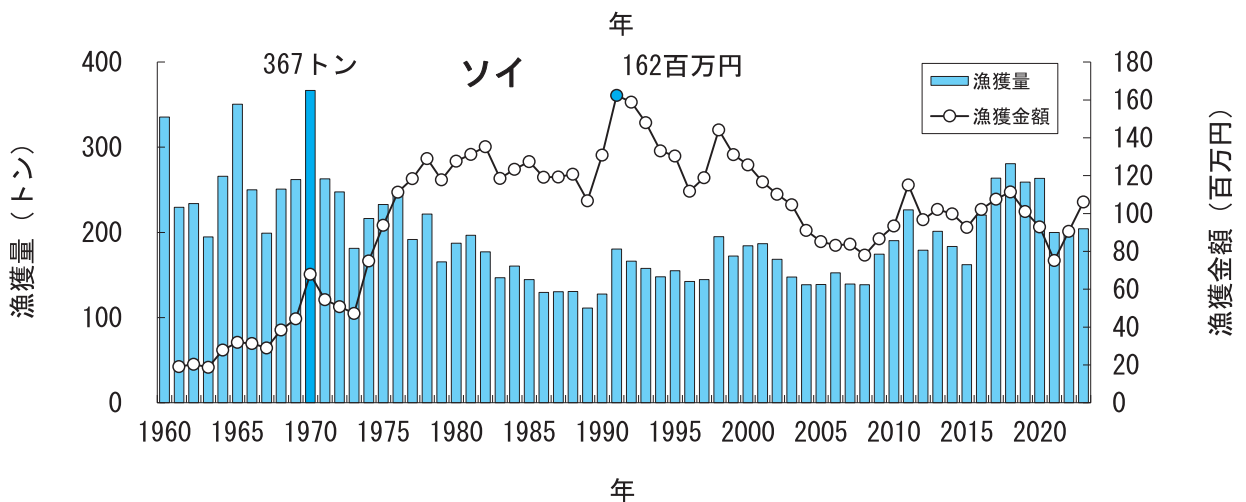
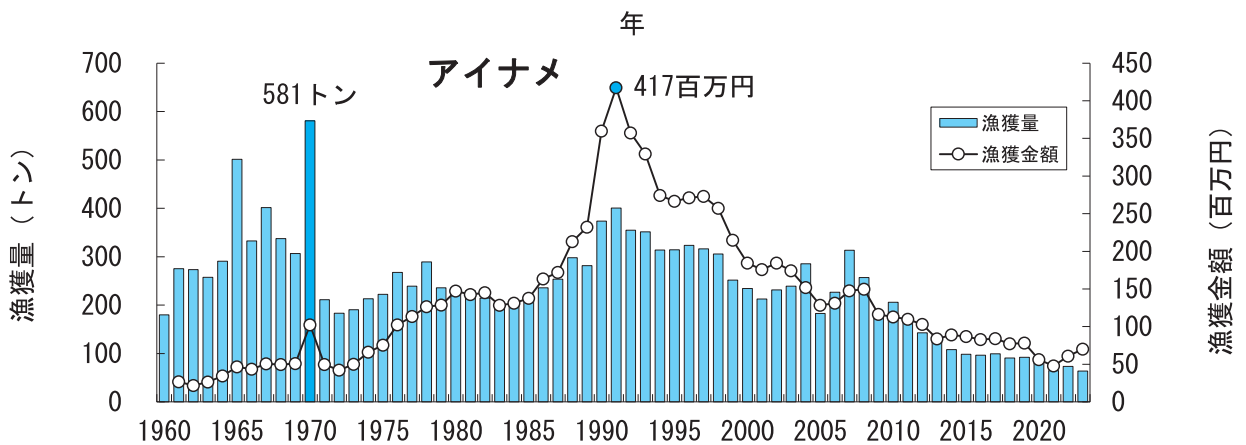
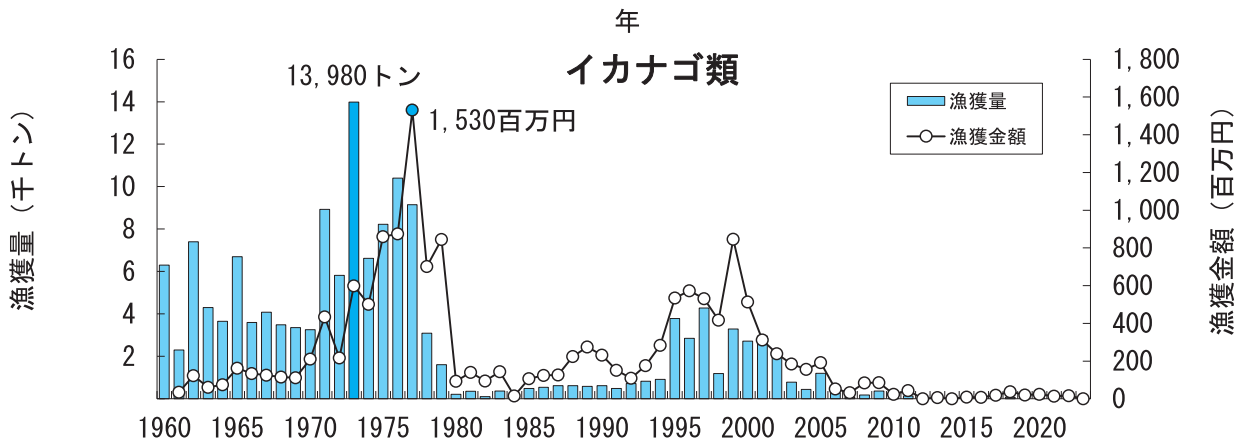
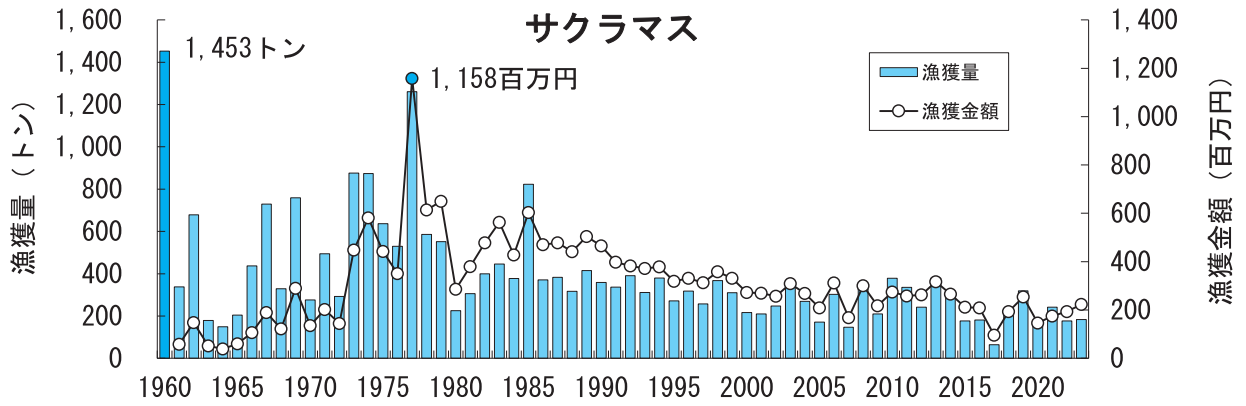
青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



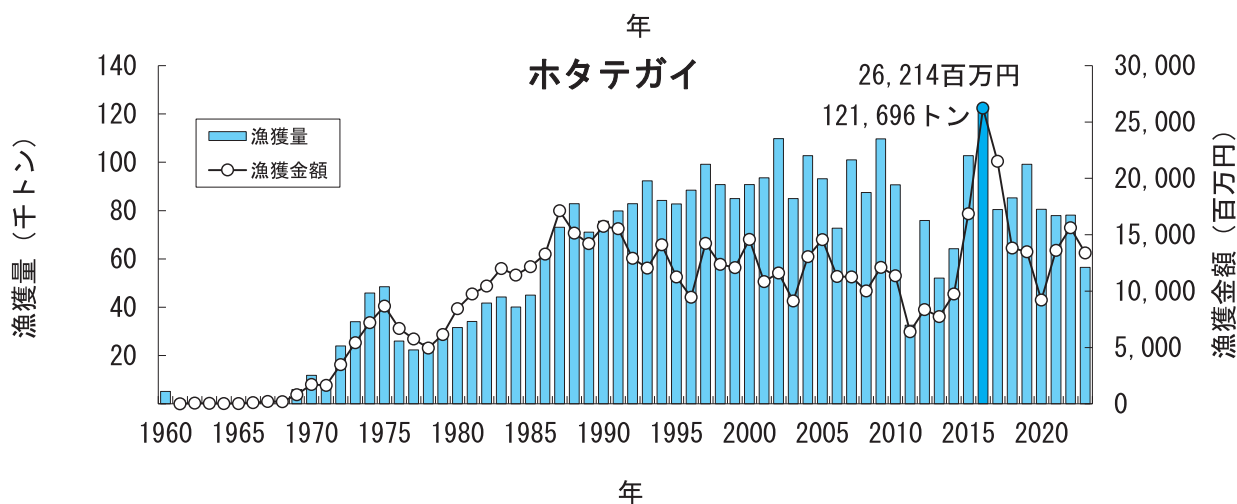
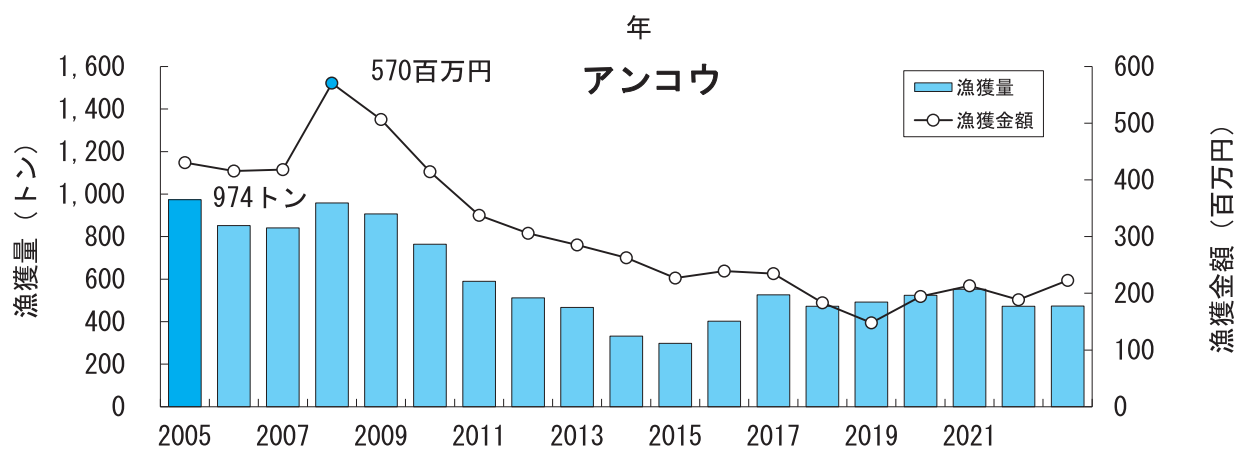
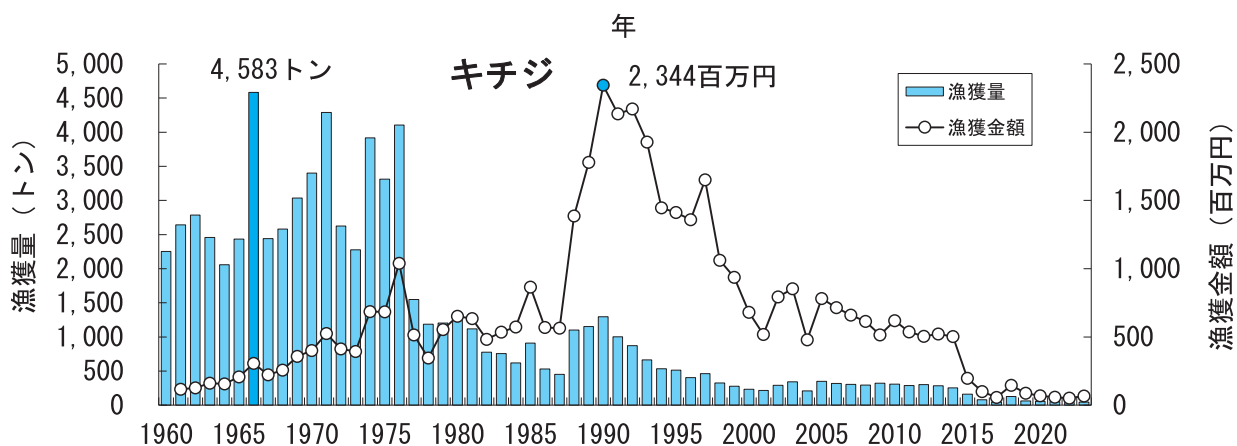
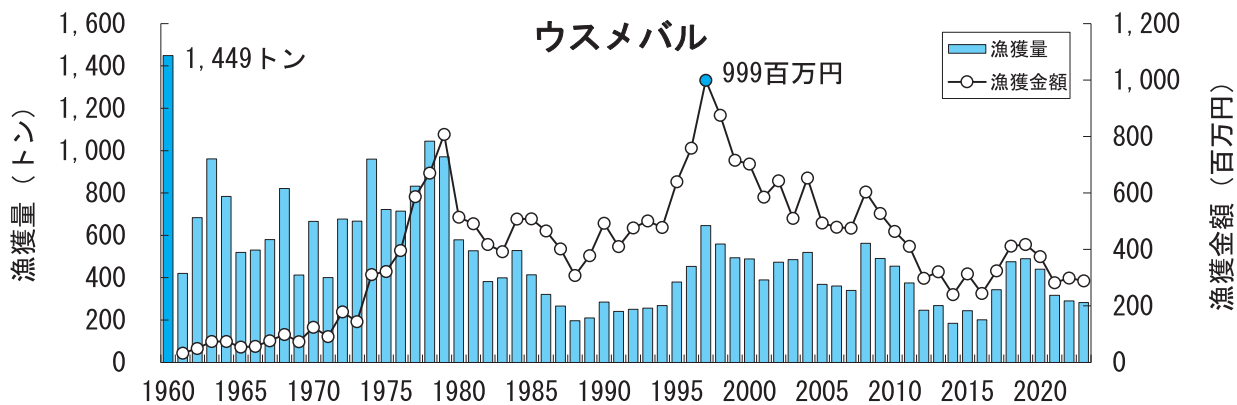
青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



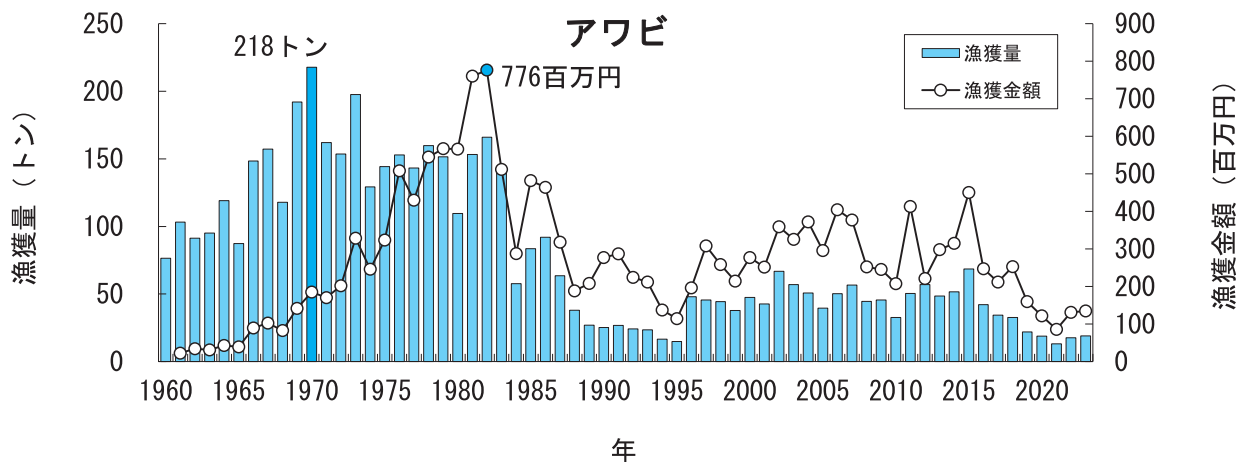
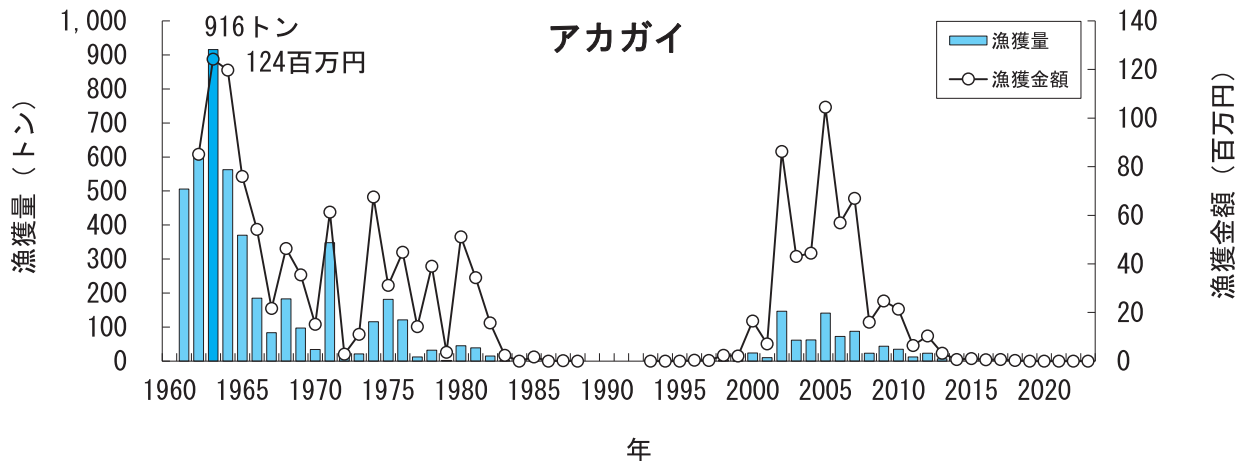
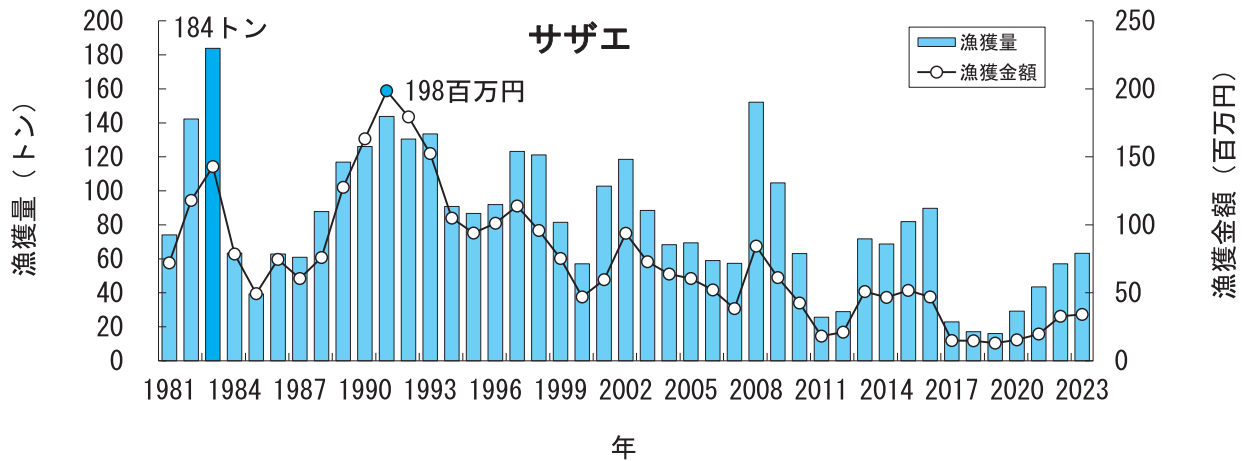
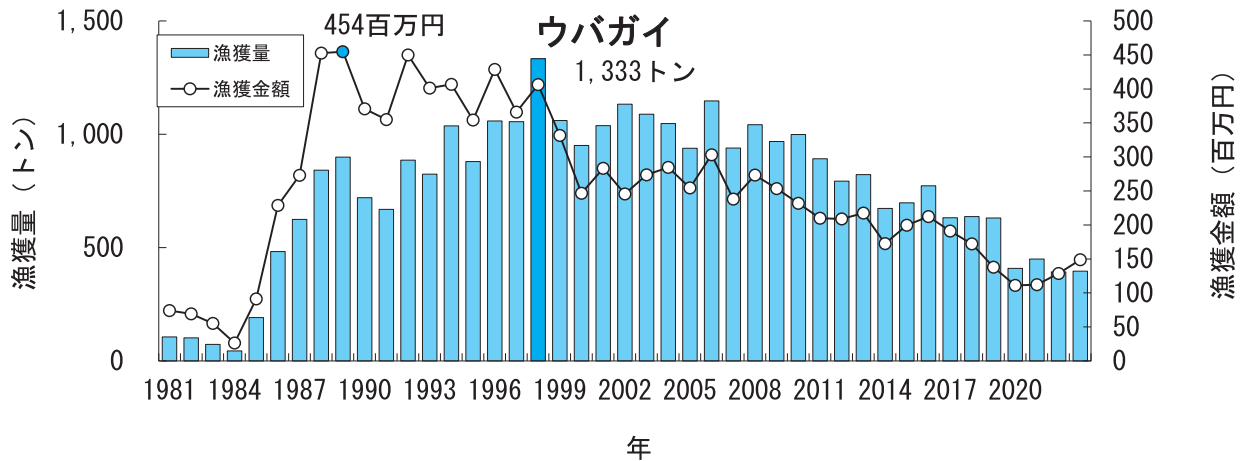
青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



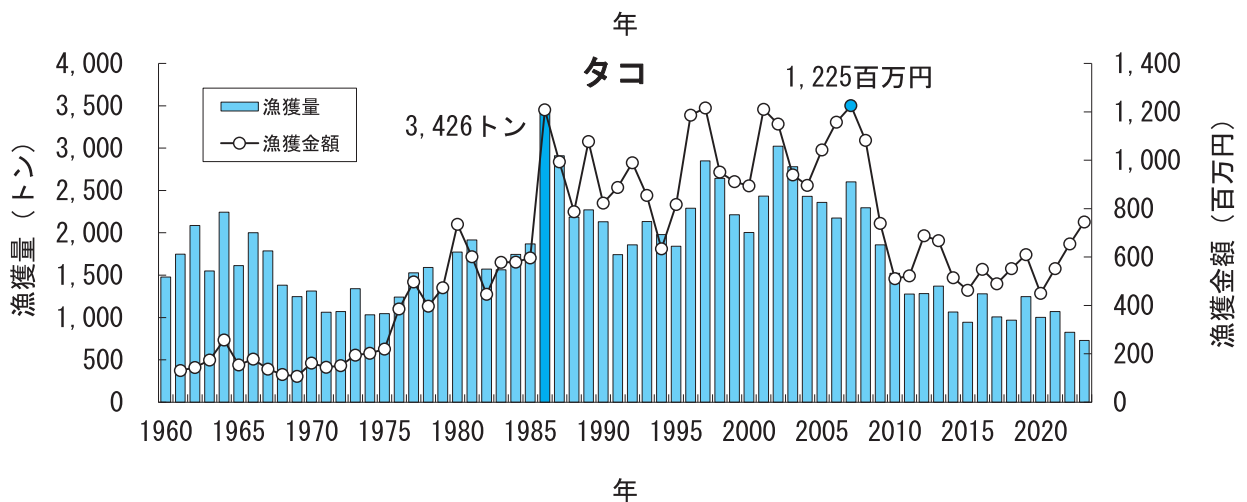
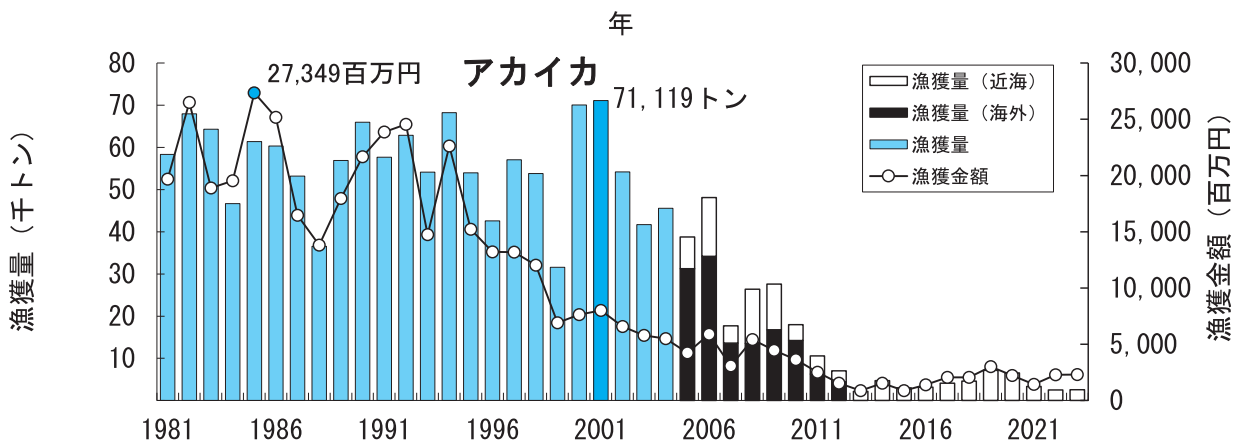
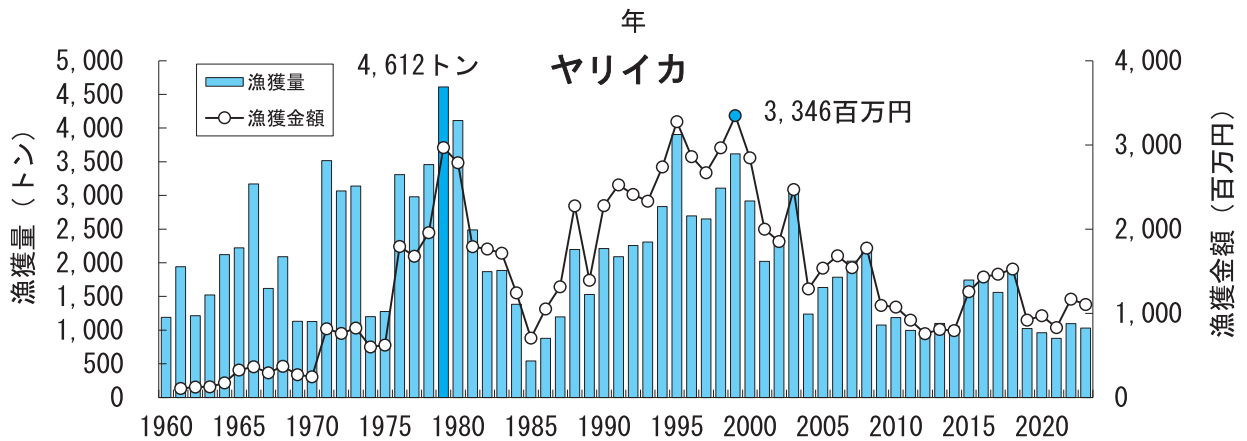
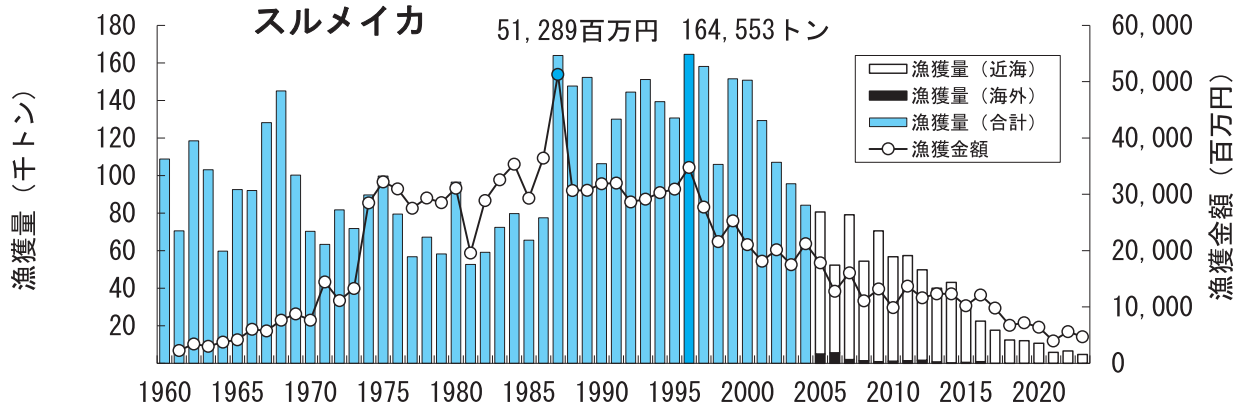
青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



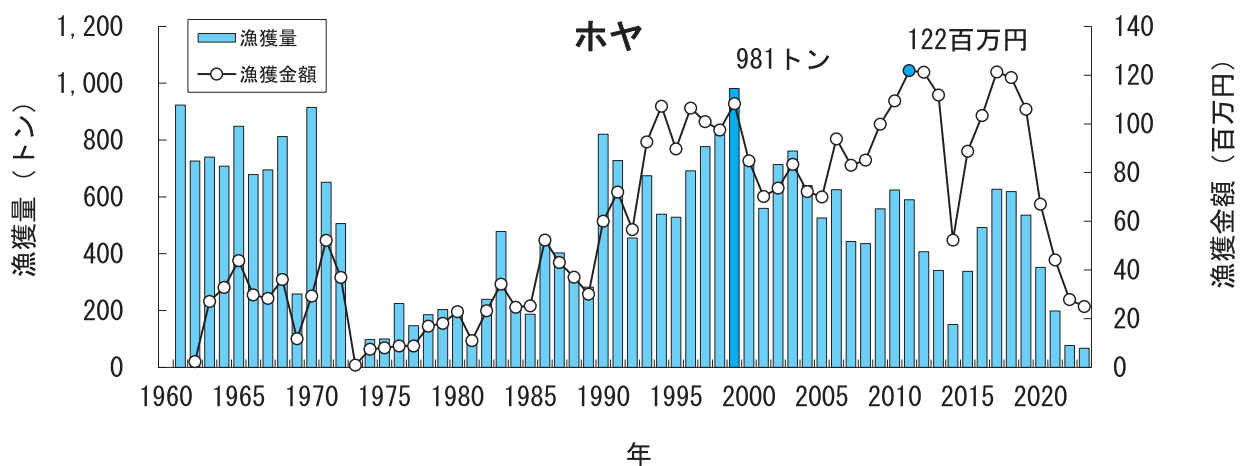
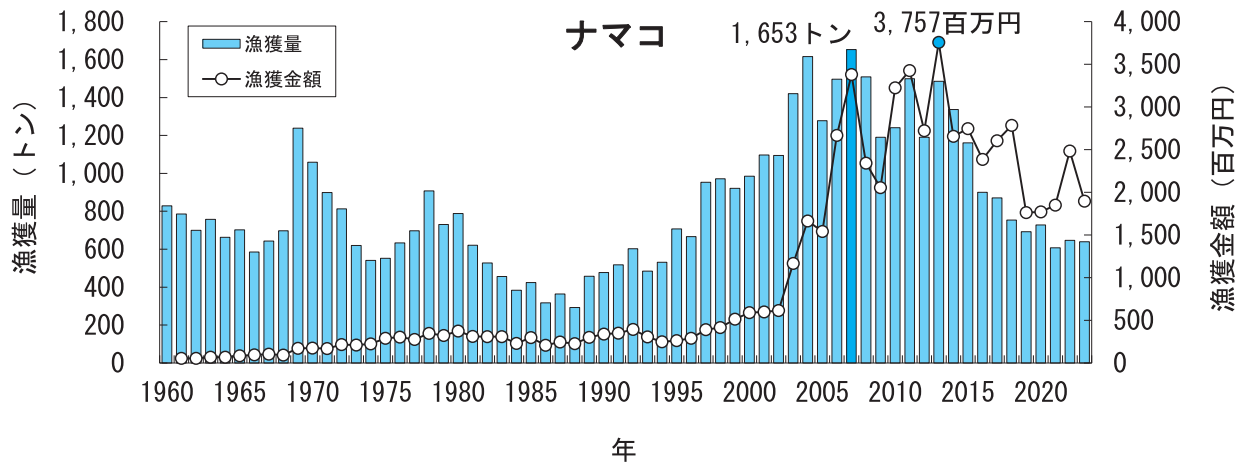
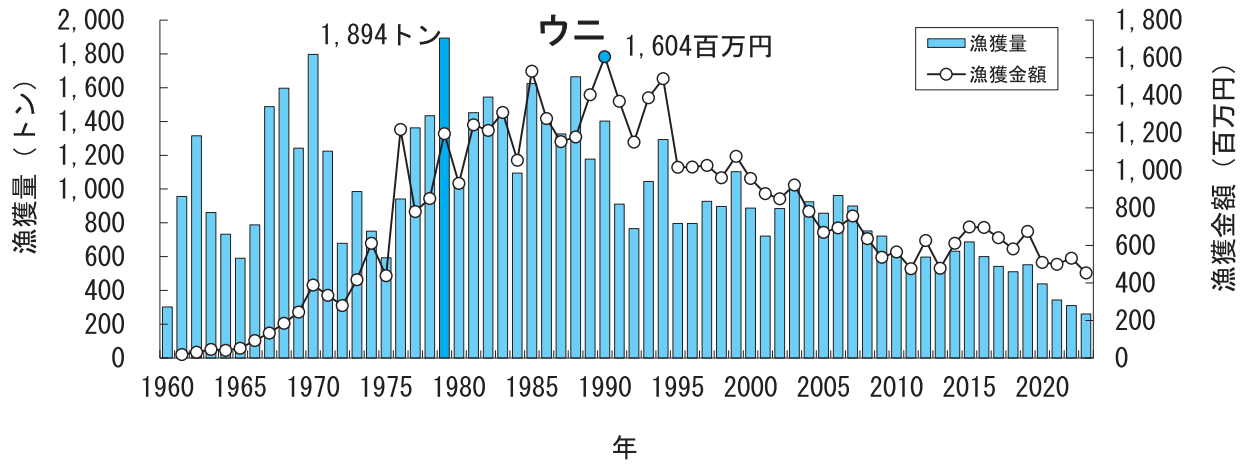
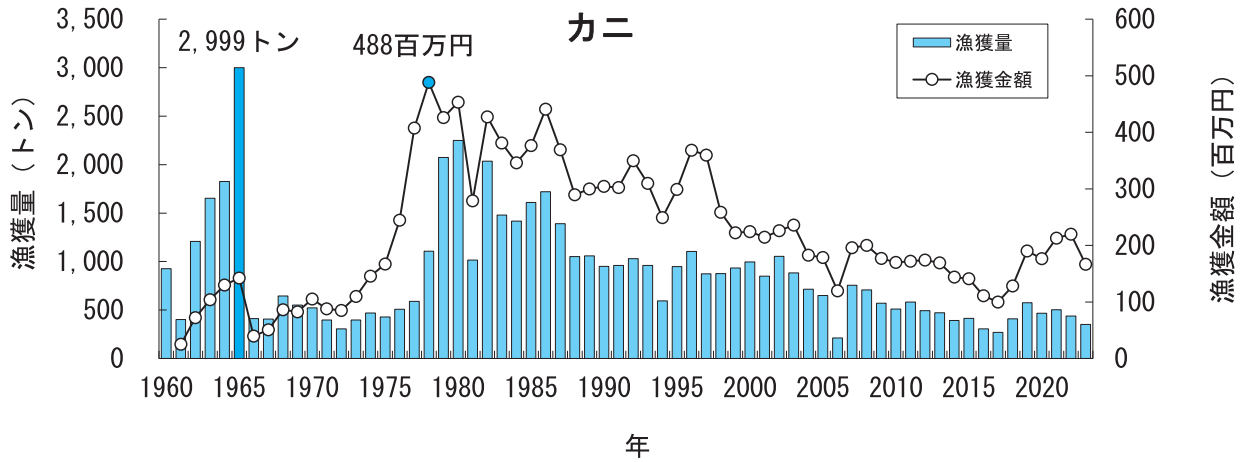
青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



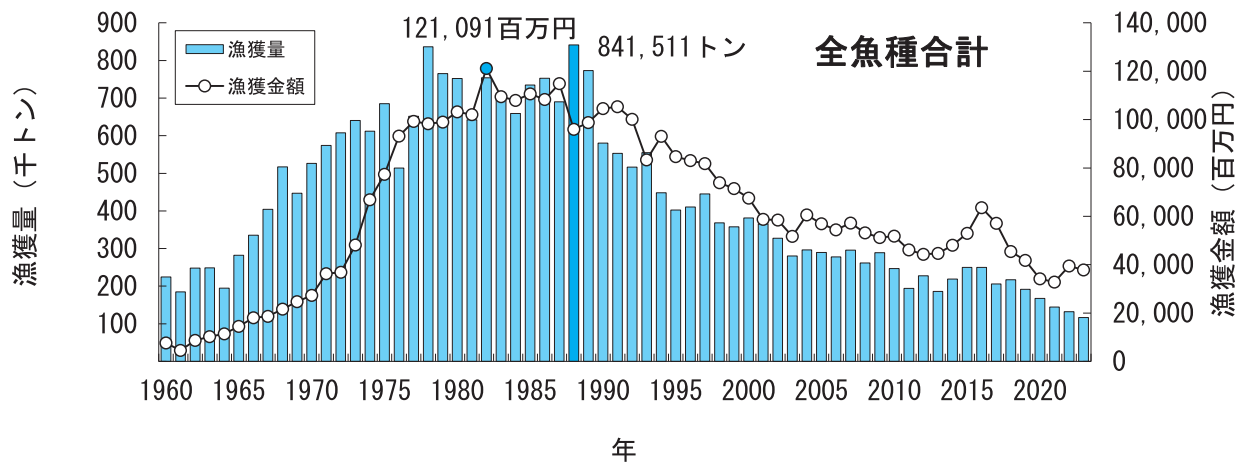
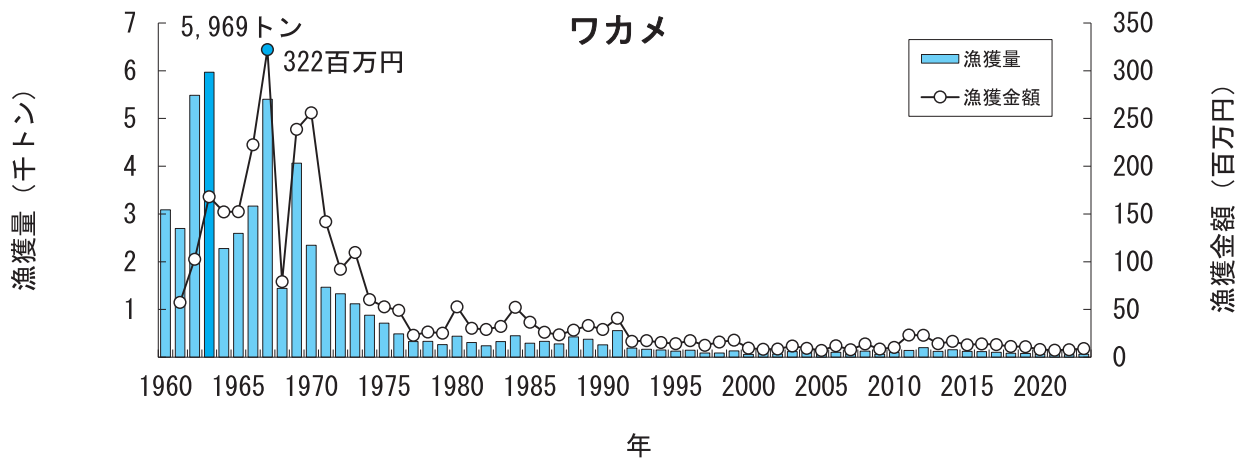
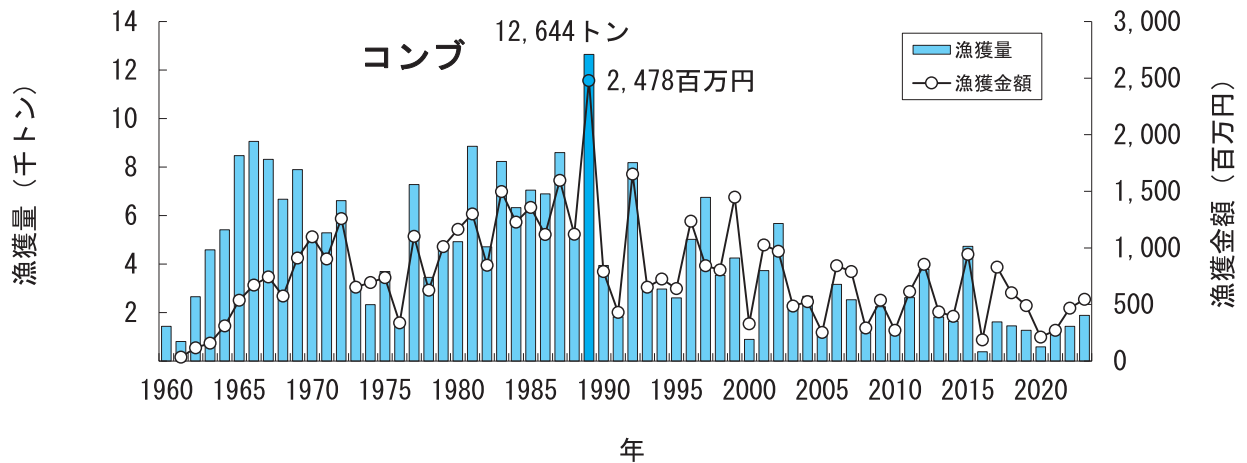
青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



青森県の主要魚種の漁獲状況（資料：青森県海面漁業に関する調査結果書、属地）



青森県における主な栽培漁業対象魚種の放流数量

① ひ ら め

	2018	2019	2020	2021	2022
数 量 (ト ン)	743	773	796	751	723
金 額 (百万円)	741	741	633	590	715
単 価 (円/kg)	998	959	795	785	988
放流数量 (千 尾)	1,030	1,317	966	1,014	1,022

② あ わ び

	2018	2019	2020	2021	2022
数 量 (ト ン)	33	22	19	13	18
金 額 (百万円)	253	160	122	86	131
単 価 (円/kg)	7,724	7,247	6,501	6,556	7,444
放流数量 (千 個)	1,289	1,126	1,566	1,530	1,476

③ きつねめばる(数量、金額、単価は「そい」の数値)

	2018	2019	2020	2021	2022
数 量 (ト ン)	281	259	263	200	201
金 額 (百万円)	111	101	93	75	91
単 価 (円/kg)	397	390	353	376	451
放流数量 (千 尾)	37	54	31	68	80

④ ま こ が れ い

	2018	2019	2020	2021	2022
数 量 (ト ン)	191	153	185	137	146
金 額 (百万円)	83	61	70	60	64
単 価 (円/kg)	432	396	377	440	438
放流数量 (千 尾)	137	589	258	122	62

⑤ ま な ま こ

	2018	2019	2020	2021	2022
数 量 (ト ン)	754	693	728	608	647
金 額 (百万円)	2,784	1,763	1,770	1,851	2,484
単 価 (円/kg)	3,693	2,543	2,431	3,046	3,841
放流数量 (千 尾)	270	289	370	421	907

⑥ う に

	2018	2019	2020	2021	2022
数 量 (ト ン)	510	552	439	344	311
金 額 (百万円)	581	675	509	499	531
単 価 (円/kg)	1,138	1,223	1,159	1,449	1,711
放流数量 (千 個)	324	213	190	189	167

※漁獲数量、金額は「青森県海面漁業に関する調査結果書」

※放流数量は「栽培漁業種苗生産、入手・放流実績」、「(公社)青森県栽培漁業振興協会資料」

青森県における資源回復計画

○広域資源回復計画（国作成）

- ・太平洋北部沖合性カレイ類資源回復計画（公表 H15. 3. 10 実施計画認定 H15. 7. 3）
対象魚種：サメガレイ、ヤナギムシガレイ、キチジ、キアンコウ
対象漁法：沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業
措置内容：保護区の設定、減船、漁具の改良
- ・日本海北部マガレイ、ハタハタ資源回復計画（公表 H15. 7. 1 実施計画認定 H15. 9. 30）
対象魚種：マガレイ、ハタハタ
対象漁法：沖合底びき網漁業、小型機船底びき網漁法、小型定置漁業、固定式刺し網漁業
措置内容：小型魚再放流、操業期間の短縮、保護区の設定、減船、休漁、漁具の改良
- ・マサバ太平洋系群資源回復計画（公表 H15. 10. 23 実施計画認定 H15. 11. 7）
対象魚種：マサバ
対象漁法：大中型まき網漁業、サバとも網漁業等、定置漁業等
措置内容：操業日数削減、操業時間削減、休漁、漁場移動等
- ・マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画（公表 H19. 3. 29 実施計画認定 H19. 8. 29）
対象魚種：マダラ
対象漁法：沖合底びき網、小型定置漁業、たら底建網漁業
措置内容：放卵・放精後親魚及び小型魚の再放流、操業統数の削減
- ・スケトウダラ日本海北部系群資源回復計画（公表 H19. 3. 29 実施計画認定 H19. 9. 13）
対象魚種スケトウダラ
対象漁法：沖合底びき網漁業、固定式刺し網漁業、はえなわ漁業
措置内容：産卵親魚の保護、操業日数削減、休漁

○地先資源回復計画（県作成）

- ・青森県イカナゴ資源回復計画（公表 H19. 3. 28 実施計画認定 H19. 11. 27）
対象種：イカナゴ
対象漁法：光力利用敷網漁業、小型定置漁業
対象地域：青森県陸奥湾口周辺海域及び白糠・泊地区
措置内容：光力利用敷網、小型定置漁業の漁期の短縮、小型定置漁業の操業統数を現状以下に制限
- ・青森県ウスメバル資源回復計画（公表 H19. 3. 28 実施計画認定 H19. 11. 27）
対象種：ウスメバル
対象漁法：一本釣り漁業、固定式刺し網漁業、小型定置漁業、底建網漁業
対象地域：青森県大間越地先から岩屋地先まで
措置内容：小型魚（日本海地区 2P(110g)、津軽海峡地区 3P(90g)以下）の荷受け制限、一本釣りと小泊、下前地区固定式刺し網の休漁日（6～8 月の間月 2 日）設定、種苗放流
- ・青森県太平洋海域ヒラメ資源回復計画（公表 H20. 3. 24 実施計画認定 H20. 7. 28）
対象種：ヒラメ
対象漁法：固定式刺し網漁業、小型機船底びき網漁業
対象地域：太平洋（尻屋漁協～階上漁協）
措置内容：9～12 月の間、固定式刺し網は水深 10m 以浅、小型機船底びき網は北緯 41 度以南の水深 100m 以浅でヒラメを目的とした操業を自粛

資源回復計画は平成 23 年度末で計画期間が終了しましたが、平成 23 年度から開始された国の資源管理体制推進事業に従い、これら計画の資源管理措置内容は、国・県が作成する資源管理方針と漁業者が作成する資源管理協定に取り込まれ、継続実施されています。

青森県における自主的資源管理措置等

魚 種	管理内容	漁業種類	対象地区・漁協
ヒラメ	再放流(35cm未満)	沖合底びき網漁業 小型底びき網漁業 定置漁業(底建網漁業) 刺し網漁業 一本釣漁業	全地区
	期間、区域、目合の制限 休漁の設定	沖合底びき網漁業 小型底びき網漁業	
	かれい刺し網3.5寸以上 三枚網、留め網禁止	刺し網漁業	
マコガレイ	期間、区域、目合の制限 休漁の設定	沖合底びき網漁業	
	かれい刺し網3.5寸以上	刺し網漁業	
	再放流(20cm未満)	定置漁業(底建網漁業) 一本釣漁業	
ムシガレイ	かれい刺し網3.5寸以上	刺し網漁業	日本海全漁協
	小型魚再放流(20cm未満)	全漁法	
マガレイ	期間、区域、目合の制限	沖合底びき網漁業	日本海全漁協 (※刺し網目合規制は三 沢市以南の漁協も含む)
	かれい刺し網3.5寸以上	刺し網漁業	
	小型魚再放流(15cm未満)	定置漁業(底建網漁業)	
イシガレイ	かれい刺し網3.5寸以上	刺し網漁業	三沢市以南の漁協
マダラ	放卵・放精後の親魚及び小型魚の再 放流	底建網漁業	陸奥湾地区
マダイ	当才魚再放流	定置漁業(底建網漁業)	日本海全漁協
イカナゴ	漁期の短縮、操業統数の制限 ※陸奥湾地区はH25年漁期から禁漁	光力利用敷網漁業 小型定置漁業	陸奥湾湾口地区 白糠・泊地区
ウスメバル	休漁の設定	一本釣漁業 刺し網漁業	日本海 津軽海峡地区
	期間・漁具の制限	刺し網漁業	
	小型魚再放流 (日本海110g、津軽海峡90g未満)	一本釣漁業 刺し網漁業	
クロソイ	再放流(15cm未満)	定置漁業(底建網漁業) 一本釣漁業	風合瀬漁協
キアンコウ	小型魚再放流(2kg未満)	全漁法	風間浦村地区
ウバガイ	漁獲量の上限設定	けた網漁業	北浜海域ほっき貝資源対 策協議会
サザエ	殻高規制(6cm未満)	鉾突き	深浦漁協
アワビ	禁漁区の設定	採貝漁業	易国間漁協 大間越漁協
ミズダコ	再放流(3kg未満) 禁漁期間(7/1～10/31)	タコ簗 タコ延縄 タコ樽流し	全地区
ナマコ	保護区域の設定 漁具の制限 再放流(小型ナマコ)	小型底びき網漁業(手繰 3種) 採貝漁業、潜水漁業等	各地区ごとに設定
トゲクリガニ	放卵ガニ、水ガニ、小型個体の再放 流(甲長雄7cm未満、雌6cm未満)	簗漁業	むつ市川内町地区 外ヶ浜町蟹田地区

青森県における資源管理協定の概要

令和6年4月1日時点

漁協	漁業種類	主な管理措置	対象魚種
小川原湖漁業協同組合	ひき網	漁獲量の制限	シラウオ
	小型機船底びき網	禁漁期間、休漁日の設定	ヤマトシジミ
階上漁業協同組合	採藻	禁漁期間の設定	マコンブ、ワカメ
	かご	禁漁期間の設定	ミズダコ、アイナメ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	定置網	禁漁期間の設定	サケ、ヒラメ、クロマグロ
	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
八戸市南浜漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、ヒラメ、クロマグロ
	かご	禁漁期間の設定	ミズダコ、アイナメ
	はえ縄	休漁日の設定	マダラ
八戸みなと漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、ヒラメ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	かご	禁漁期間の設定	ミズダコ、アイナメ
	小型機船底びき網	操業日数の制限	マダラ、スケトウダラ、ヒラメ
市川漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、ヒラメ
	小型機船底びき網	漁獲量の制限	ウバガイ
百石町漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、ヒラメ
	小型機船底びき網	漁獲量の制限	ウバガイ
三沢市漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、ヒラメ、クロマグロ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	小型機船底びき網	漁獲量の制限	ウバガイ
	刺し網	休漁日の設定	ヒラメ、カレイ類
六ヶ所村海水漁業協同組合 及び六ヶ所村漁業協同組合	定置網(六ヶ所村海水)	禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ、 クロマグロ
	かご	禁漁期間の設定	ミズダコ
	定置網(六ヶ所村)	禁漁期間の設定	サケ、ヒラメ、クロマグロ
泊漁業協同組合	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	刺し網	禁漁期間の設定	ヒラメ、カレイ類、アイナメ
	一本釣り	休漁日の設定	ヒラメ、サクラマス
	定置網	禁漁期間の設定	ブリ、サケ、ヒラメ、 クロマグロ
	はえ縄	休漁日の設定	マダラ
白糠漁業協同組合	刺し網	禁漁期間、 休漁日の設定	カレイ類、サクラマス、ヒラメ
	一本釣り	休漁日の設定	サクラマス、ヒラメ、マダラ
	採藻	禁漁期間の設定	マコンブ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	定置網	操業日数の制限、 禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ
小田野沢漁業協同組合	定置網	操業日数の制限、 禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ
	底建網	禁漁期間の設定	ウスメバル、スルメイカ、ヒラメ
	採藻	禁漁期間の設定	マコンブ
猿ヶ森漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ、 クロマグロ
	底建網	禁漁期間の設定	スルメイカ、ヒラメ、ウスメバル

青森県における資源管理協定の概要

令和6年4月1日時点

漁協	漁業種類	主な管理措置	対象魚種
尻労漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ、クロマグロ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	底建網	禁漁期間の設定	スルメイカ、ヒラメ、ウスメバル
	一本釣り	休漁日の設定	ブリ、サクラマス、ヒラメ、クロマグロ
尻屋漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ、クロマグロ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	籠・はえ縄・たる流し	禁漁期間の設定	ミズダコ
	採藻	禁漁期間の設定	マコンブ
岩屋漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	籠・はえ縄・たる流し	禁漁期間の設定	ミズダコ
	潜水器	休漁日の設定	エゾアワビ
野牛漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ
	底建網	禁漁期間の設定	ヒラメ、ミズダコ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	籠・はえ縄・たる流し	禁漁期間の設定	ミズダコ
	潜水器	禁漁期間の設定	エゾアワビ
	刺し網	休漁日の設定	カレイ類、ヒラメ
	一本釣り	休漁日の設定	サクラマス、ヒラメ
	小型機船底びき網	禁漁期間の設定	ホタテガイ
石持漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ
	底建網	禁漁期間の設定	ヒラメ、スルメイカ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	籠・はえ縄・たる流し	禁漁期間の設定	ミズダコ
	採藻	禁漁期間の設定	マコンブ
	小型機船底びき網	休漁日の設定	ホタテガイ
関根浜漁業協同組合	底建網	禁漁期間の設定	ヒラメ、スルメイカ
	採藻	禁漁期間の設定	マコンブ
大畑町漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	サケ、スルメイカ、ヒラメ
	底建網	禁漁期間の設定	スルメイカ、ヒラメ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	籠・はえ縄・たる流し	禁漁期間の設定	ミズダコ
	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
	一本釣り	休漁日の設定	サクラマス、ヒラメ
風間浦漁業協同組合	いか釣り(下風呂地区)	休漁日の設定	スルメイカ
	いか釣り(易国間地区)	休漁日の設定	スルメイカ
	定置網(易国間地区)	禁漁期間の設定	ヤリイカ、ヒラメ
	採藻(易国間地区)	禁漁期間の設定	マコンブ
	採藻(蛇浦地区)	禁漁期間の設定	マコンブ
	定置網(蛇浦地区)	禁漁期間の設定	ヤリイカ、カレイ類、ヒラメ
	刺し網(蛇浦地区)	休漁日の設定	キアンコウ
	はえ縄(蛇浦地区)	休漁日の設定	クロマグロ

青森県における資源管理協定の概要

令和6年4月1日時点

漁協	漁業種類	主な管理措置	対象魚種
大間漁業協同組合	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
	一本釣り	休漁日の設定	クロマグロ、ウスメバル、クロソイ、アイナメ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
奥戸漁業協同組合	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
	一本釣り	休漁日の設定	クロマグロ、ウスメバル、クロソイ、アイナメ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	籠・たる流し	禁漁期間の設定	ミズダコ
佐井村漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	イカナゴ、ヒラメ、クロマグロ
	底建網	禁漁期間の設定	マダラ、サケ、ヒラメ
	籠・はえ縄・たる流し	禁漁期間の設定	ミズダコ
	一本釣り	休漁日の設定	ウスメバル、クロソイ
	採藻	禁漁期間の設定	マコンブ
脇野沢村漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	ヒラメ
	底建網	禁漁期間の設定	マダラ、ヒラメ
	刺し網	休漁日の設定	カレイ類
	小型機船底びき網	禁漁期間の設定	マナマコ
	採介	禁漁期間の設定	マナマコ
野辺地町漁業協同組合	小型機船底びき網	休漁日の設定	ホタテガイ
	小型機船底びき網	休漁日の設定	マナマコ
	採介	休漁日の設定	マナマコ
	かご	休漁日の設定	アイナメ
平内町漁業協同組合	小型機船底びき網	休漁日の設定	マナマコ
	刺し網	休漁日の設定	マナマコ
	採介	休漁日の設定	マナマコ、エゾアワビ
	刺し網	休漁日の設定	カレイ類、ヒラメ
外ヶ浜漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	マイワシ、スルメイカ、ヒラメ
	底建網	禁漁期間の設定	マダラ、ヒラメ
	かご	禁漁期間、休漁日の設定	アイナメ、ミズダコ
	刺し網	休漁日の設定	カレイ類、マナマコ、ヒラメ
竜飛今別漁業協同組合	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
	一本釣り	休漁日の設定	クロマグロ、ヒラメ、ウスメバル
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	採藻	禁漁期間の設定	マコンブ
三厩口漁業協同組合	一本釣り	休漁日の設定	クロマグロ、ヒラメ、ウスメバル
	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	はえ縄	休漁日の設定	アブラツノザメ
	籠・はえ縄・たる流し	禁漁期間の設定	ミズダコ
小泊漁業協同組合	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	刺し網	休漁日の設定	ウスメバル、マダラ

青森県における資源管理協定の概要

令和6年4月1日時点

漁協	漁業種類	主な管理措置	対象魚種
下前漁業協同組合	一本釣り	休漁日の設定	ウスメバル、ブリ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
十三漁業協同組合	小型機船底びき網	禁漁期間の設定	ヤマトシジミ
	底建網	禁漁期間の設定	マダラ、ヒラメ、カレイ類
車力漁業協同組合	小型機船底びき網	禁漁期間の設定	ヤマトシジミ
	定置網	禁漁期間の設定	ブリ、クロマグロ、ヒラメ
	底建網	禁漁期間の設定	マダラ、カレイ類、ヒラメ
鰯ヶ沢町漁業協同組合	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	底建網(鰯ヶ沢地区)	禁漁期間の設定	ハタハタ、ヤリイカ、ヒラメ
	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
	底建網(赤石地区)	禁漁期間の設定	ハタハタ、ヤリイカ、ヒラメ
新深浦町漁業協同組合	定置網	禁漁期間、 休漁日の設定	サケ、クロマグロ、マダラ、 ハタハタ
	刺し網	休漁日の設定	マダラ、ウスメバル、ヒラメ、 キアンコウ
	底建網	禁漁期間の設定	ヤリイカ、ヒラメ、アイナメ
	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
	一本釣り	休漁日の設定	ウスメバル、クロマグロ、ブリ
	かご	休漁日の設定	ベニズワイガニ
	潜水器	休漁日の設定	エゾアワビ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
風合瀬漁業協同組合	底建網	禁漁期間の設定	ヤリイカ、ヒラメ
	はえ縄	休漁日の設定	クロマグロ
	一本釣り	休漁日の設定	ウスメバル、クロマグロ、ブリ
	刺し網	休漁日の設定	クロソイ、アイナメ
深浦漁業協同組合	定置網	禁漁期間の設定	ブリ、クロマグロ、ヒラメ
	底建網	禁漁期間の設定	ヤリイカ、ヒラメ
	刺し網	休漁日の設定	ヒラメ
	一本釣り	休漁日の設定	ウスメバル、クロマグロ、 マダラ
	いか釣り	休漁日の設定	スルメイカ
	潜水器	休漁日の設定	エゾアワビ

青森県漁業調整規則による採捕の制限（海面）

（禁止区域等）

第39条 何人も、次の表の上欄に掲げる水産動物を、同表の中欄に掲げる期間中、同表の下欄に掲げる区域において採捕してはならない。

水産動物	期間	区域
1 さけ（全長20センチメートル以下のものに限る。）	周年	海面
2 略	略	略
3 ます（全長17センチメートル以下のものに限る。）	周年	海面
4 あかがい（殻長8.5センチメートル以下のものに限る。）	周年	海面
5 あかがい（殻長8.5センチメートルを超えるものに限る。）	7月1日から9月30日まで	海面
6 あかざらがい（殻長6センチメートル以下のものに限る。）	周年	海面
7 あかざらがい（殻長6センチメートルを超えるものに限る。）	4月1日から6月30日まで	海面
8 あわび（殻長9センチメートル以下のものに限る。）	周年	海面
9 あわび（殻長9センチメートルを超えるものに限る。）	8月1日から10月31日まで	西津軽郡久六島最高点に設置した標柱から4,000メートル以内の海域を除く海面
	9月1日から10月31日まで	西津軽郡久六島最高点に設置した標柱から4,000メートル以内の海域
10 ほたてがい（殻長10センチメートル以下のものに限る。）	周年	海面
11 ほっきがい（殻長7センチメートル以下のものに限る。）	周年	海面
12 ほっきがい（殻長7センチメートルを超えるものに限る。）	5月1日から11月30日まで	海面
13 なまこ	5月1日から9月30日まで	海面
14～28 略	略	略

2 次の各号に掲げる場合は、当該各号に定める規定は、適用しない。

一 略

二 第1種共同漁業を内容とする漁業権又はこれに係る組合員行使権を有する者がこれらの権利に基づいて当該漁業権の存する漁場内における種苗の移植のために採捕する場合 前項（同項の表の第4号、第6号、第8号、第10号及び第11号に係る部分に限る。）の規定

3 何人も、海面において、はたはたの産んだ卵を採捕してはならない。

4 略

5 何人も、第1項（同項の表の第23号に係る部分を除く。）若しくは前2項の規定に違反して採捕された水産動物又はその製品を所持し、又は販売してはならない。

青森県の水産関係機関は下記で構成されています（令和6年4月）

行政をおしすすめる 機関	漁業者等を指導・ 育成する機関	水産に関する研究を 行う機関
農林水産部 水産局水産振興課・水産局漁港漁場整備課 ・食ブランド・流通推進課 〒030-8570 青森市長島一丁目1-1 TEL: 017-722-1111(代) ホームページ: https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/index.html	(地独)青森県産業技術センター 賓陽塾(水産総合研究所内) (右同)	水産総合研究所 〒039-3381 東津軽郡平内町大字 茂浦字月泊10 TEL: 017-755-2155 FAX: 017-755-2156 ホームページ: https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_sougou/
東青地域県民局地域農林水産部 東青地方水産事務所 〒030-0901 青森市港町二丁目22-4 (水産普及課) TEL: 017-765-2520 FAX: 017-765-2521 (管理課・建設課・計画指導課) TEL: 017-741-4451 FAX: 017-741-4468	東青地方水産事務所(水産普及課) (左同)	内水面研究所 〒034-0041 十和田市大字 相坂字白上344-10 TEL: 0176-23-2405 FAX: 0176-22-8041 ホームページ: https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_naisuimen/
三八地域県民局地域農林水産部 三八地方水産事務所 〒039-1161 八戸市大字河原木字北沼1-131 (水産普及課) TEL: 0178-21-1185 FAX: 0178-20-1108 (管理課・建設課) TEL: 0178-21-1077 FAX: 0178-20-1105	三八地方水産事務所(水産普及課) (左同)	食品総合研究所 〒031-0831 八戸市築港街 二丁目10 TEL: 0178-33-1347 FAX: 0178-33-0321 ホームページ: https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/syoku_sougou/
下北地域県民局地域農林水産部 下北地方水産事務所 〒035-0073 むつ市中央一丁目1-8 (水産普及課) TEL: 0175-22-9732 FAX: 0175-22-8626 (管理課・建設課・計画指導課) TEL: 0175-33-3051 FAX: 0175-22-2500	下北地方水産事務所(水産普及課) (左同)	下北ブランド研究所 〒039-4401 むつ市大畑町大字 大畑字上野154 TEL: 0175-34-2188 FAX: 0175-45-3175 ホームページ: https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/syoku_simokita/
西北地域県民局地域農林水産部 西北地方水産事務所 〒038-2731 西津軽郡鰺ヶ沢町大字 舞戸町字鳴戸384-37 (水産普及課) TEL: 0173-72-4300・7250 FAX: 0173-72-7251 (管理課・建設課) 〒038-2753 西津軽郡鰺ヶ沢町本町246-3 TEL: 0173-72-2345 FAX: 0173-72-3445	西北地方水産事務所(水産普及課) (左同)	(公社)青森県栽培漁業振興協会 〒039-1201 三戸郡階上町大字 道仏字榊平17-1 TEL: 0178-87-3360 FAX: 0178-80-6952

<お役立ち情報> (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

- 海ナビ@あおもり(青森県海況気象情報総合提供システム): <https://www.aomori-itc.or.jp/uminavi/>
- ウオダス漁海況速報: https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/suisan_sougou/output/uodas/uodas.html

○表紙写真及び裏表紙の解説

表紙の写真

(上)、(下)ウバガイ資源量調査風景
 おいらせ町百石地先で撮影。
 (三八地方水産事務所提供)

裏表紙

標識魚の再捕報告のお願い！

標識魚の再捕報告のお願い！

魚種名	標 識		報告先	
	種 類	部 位		
ヒラメ（稚魚）	鰭カット	無眼側の胸鰭	(地独) 青森県産業技術センター水産総合研究所 住所 〒039-3381 東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10 TEL 017-755-2155 FAX 017-755-2156	
		背鰭の後端		
		尻鰭の後端		
	その他各種標識（焼印など）			
マコガレイ（稚魚）	鰭抜去	無眼側の胸鰭		公益社団法人青森県栽培漁業振興協会 住所 〒039-1201 三戸郡階上町大字道仏字榊平17-1 TEL 0178-87-3360 FAX 0178-80-6952
キツネメバル（稚魚）	鰭抜去	腹鰭 （右・左）		
ウスメバル（稚魚）	黒色結束バンド	背鰭基部		
マダラ（稚魚）	鰭抜去	腹鰭		
マダラ	青色・黄色ディスクタグ （青+アルファベット+数字3桁） 	背鰭基部		
ブリ	桃色ダートタグ （AOMORI+数字4桁、電話番号） 	背鰭基部		
アイナメ	アンカータグ ダートタグ	背鰭基部		
キアンコウ	黄色ディスクタグ （青+アルファベット+数字3桁） 	背鰭基部	青森県下北地域県民局地域農林水産部 下北地方水産事務所 水産普及課 住所 〒035-0073 むつ市中央一丁目1-8 TEL 0175-22-8581(内線393) FAX 0175-22-8626	
サクラマス（幼魚）	鰭カット	脂鰭 腹鰭（右） 腹鰭（左） の組み合わせ	(地独) 青森県産業技術センター内水面研究所 住所 〒034-0041 十和田市大字相坂字白上344-10 TEL 0176-23-2405 FAX 0176-22-8041	

標識魚を漁獲した場合は、下記の情報を関係機関まで御報告願います!!

- ①漁獲年月日 ②漁獲場所 ③全長・重量 ④漁法
 ⑤標識の種類 ⑥氏名・連絡先・住所・所属漁協

未来につなぐ資源管理2024年版 令和6年5月発行

発行：青森県

編集：青森県農林水産部水産局水産振興課

地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所